

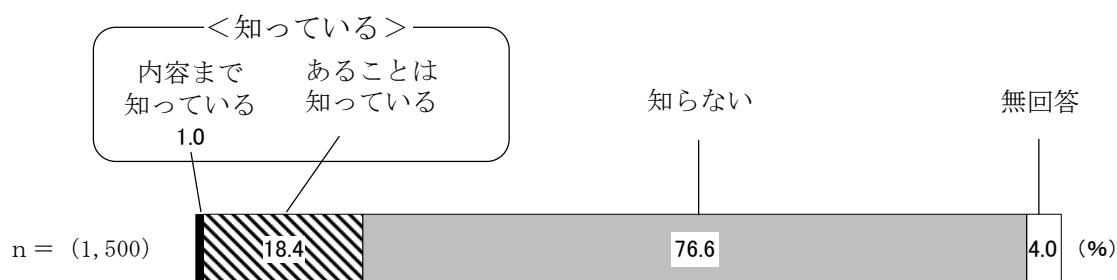
5 区民会議について

5-1 区民会議の認知状況

◎<知っている>が19.4%

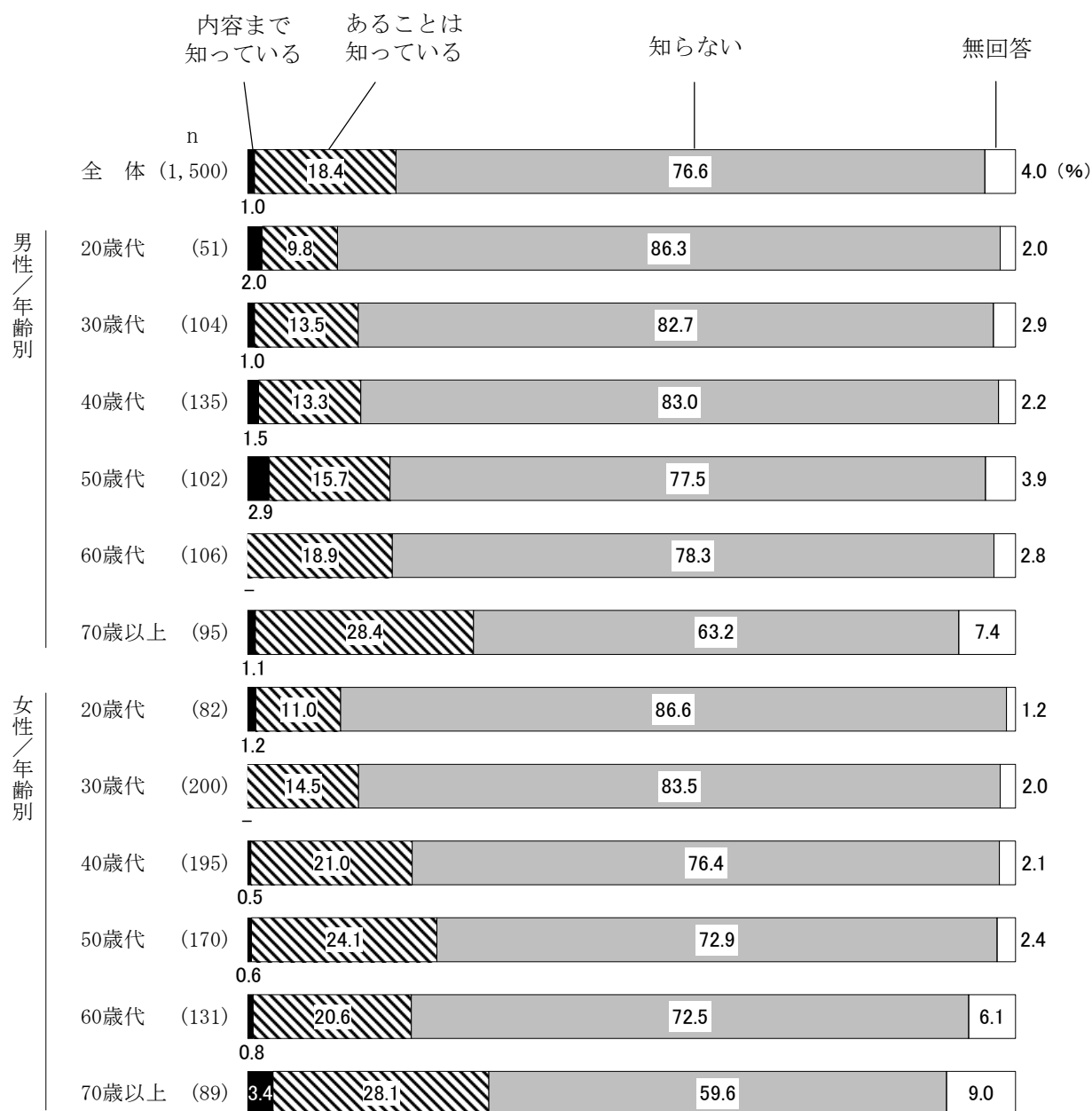
問12 あなたは、お住まいの区の区民会議について知っていますか。(○は1つだけ)

図表5-1 区民会議の認知状況



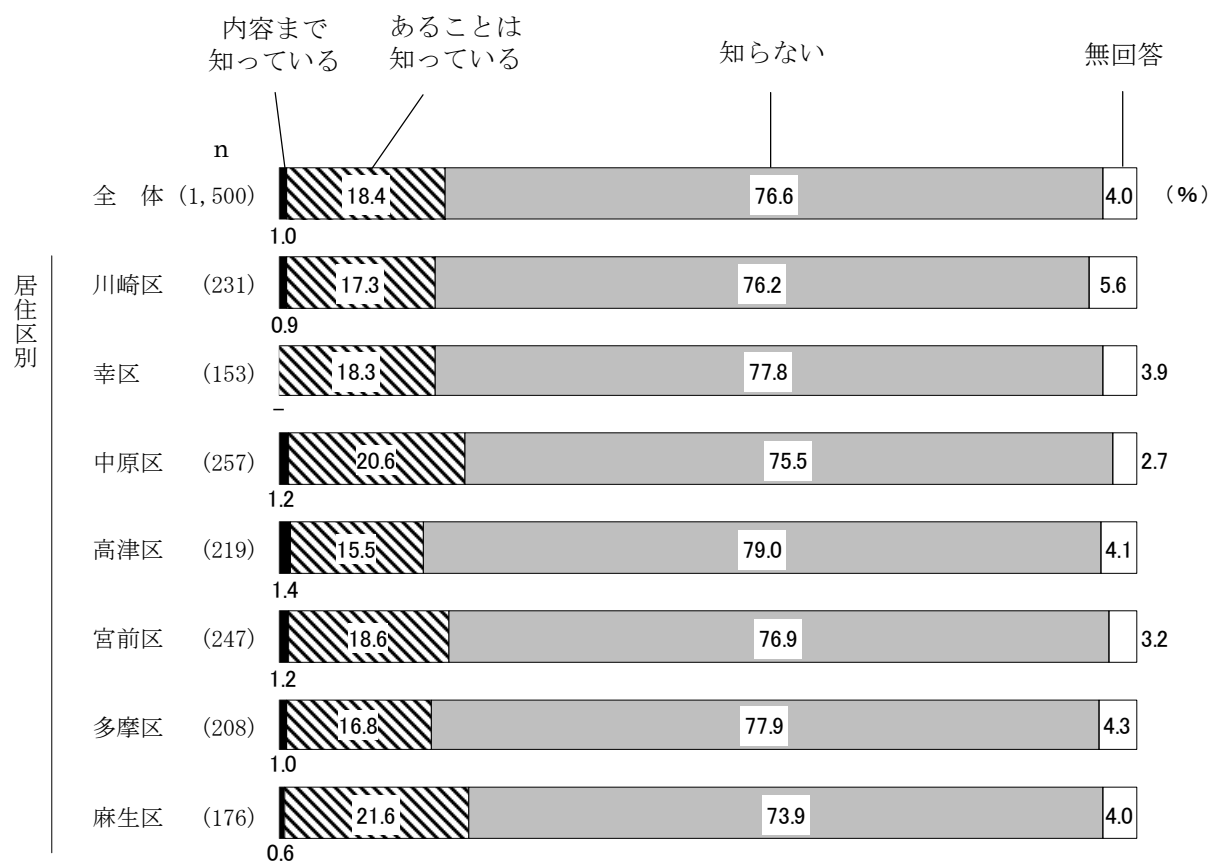
区民会議の認知状況は、「内容まで知っている」(1.0%)と「あることは知っている」(18.4%)をあわせた<知っている>が19.4%となっている。一方、「知らない」(76.6%)は7割台半ばとなっている。(図表5-1)

図表5-2 区民会議の認知状況(性/年齢別)



性/年齢別では、<知っている>は、男女ともに70歳以上(男性:29.5%、女性:31.5%)が最も多く、約3割となっている。一方、「知らない」は、男女ともに20歳代(男性:86.3%、女性:86.6%)が8割台半ばと最も多くなっている。(図表5-2)

図表5-3 区民会議の認知状況(居住区別)



居住区別では、<知っている>は、麻生区(22.2%)、中原区(21.8%)が2割台と多くなっており、高津区(16.9%)が最も少なくなっている。(図表5-3)

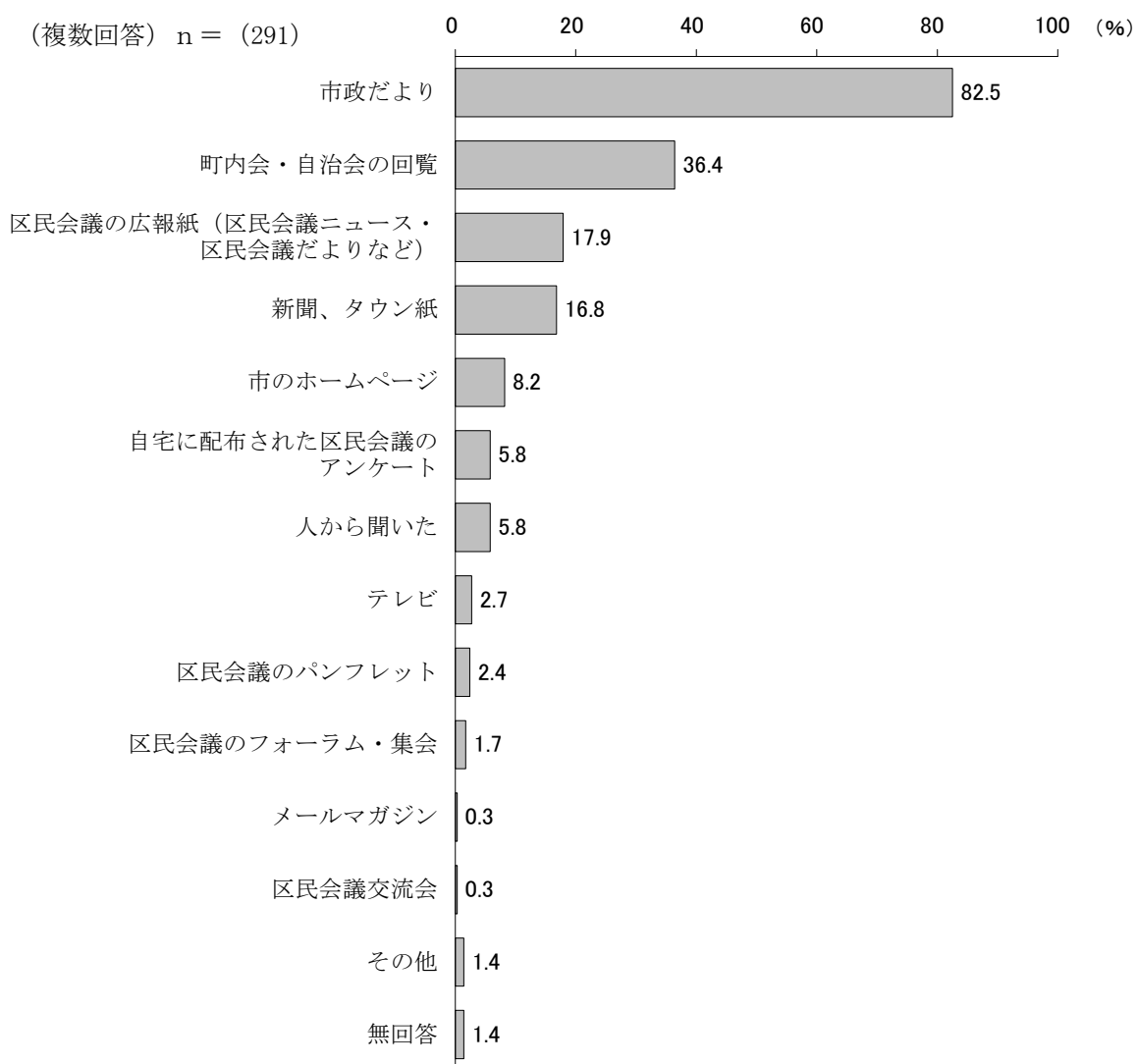
5-2 区民会議の認知媒体

◎「市政だより」が82.5%

問12-1 (問12で「1. 内容まで知っている」「2. あることは知っている」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

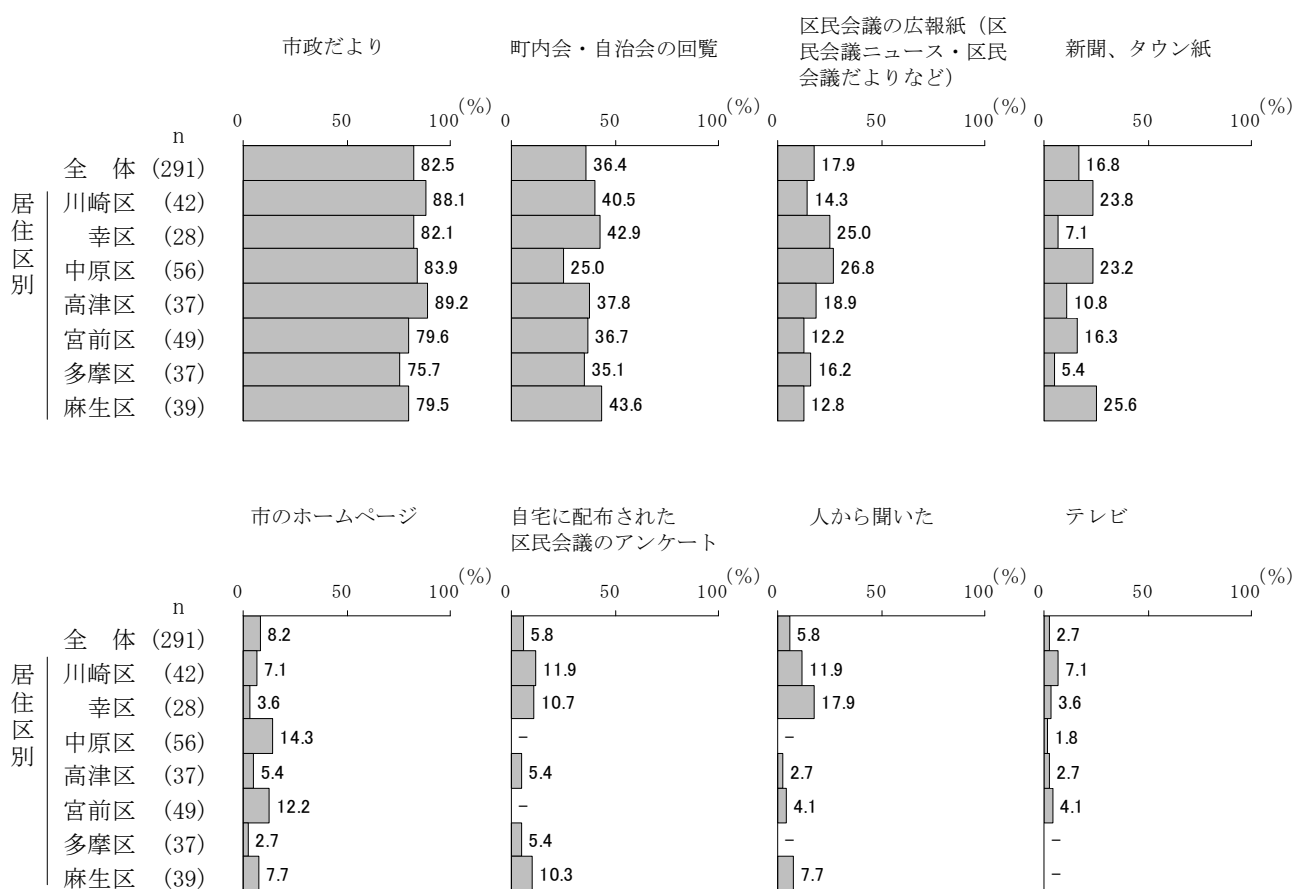
区民会議をどのようにして知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表5-4 区民会議の認知媒体



区民会議の認知媒体は、「市政だより」(82.5%)が8割台と最も多くなっている。次いで、「町内会・自治会の回覧」(36.4%)、「区民会議の広報紙(区民会議ニュース・区民会議だよりなど)」(17.9%)、「新聞、タウン紙」(16.8%)の順となっている。(図表5-4)

図表5-5 区民会議の認知媒体（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「市政だより」は、高津区（89.2%）、川崎区（88.1%）が8割台後半と多くなっている。「町内会・自治会の回覧」は、麻生区（43.6%）が最も多くなっている。「区民会議の広報紙（区民会議ニュース・区民会議だよりなど）」は、中原区（26.8%）、幸区（25.0%）が多くなっている。「新聞、タウン紙」は、麻生区（25.6%）、川崎区（23.8%）、中原区（23.2%）が2割台と多くなっている。（図表5-5）

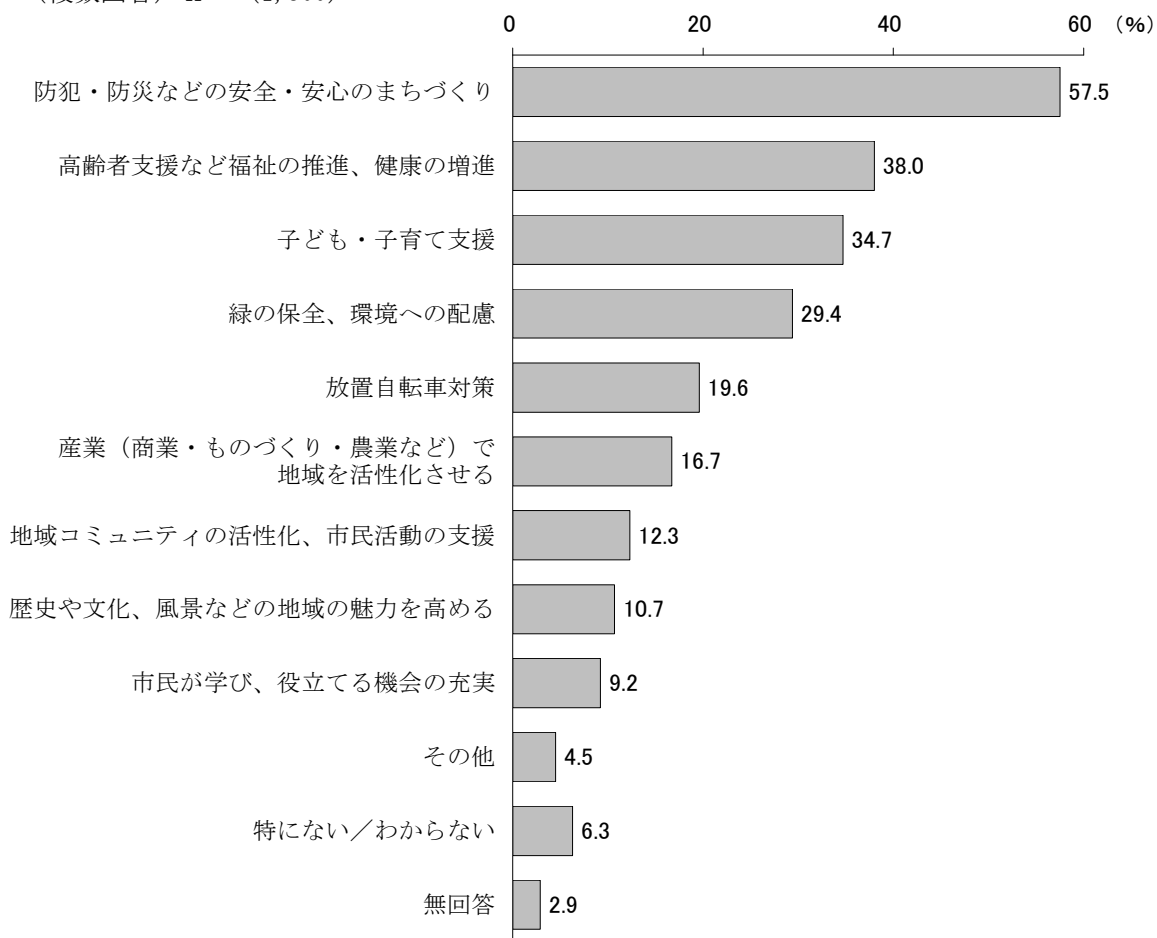
5-3 区民会議で取り上げてほしい地域の課題

◎「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」が57.5%

問13 区民会議で、どのような地域の課題を取り上げてほしいですか。(〇は3つまで)

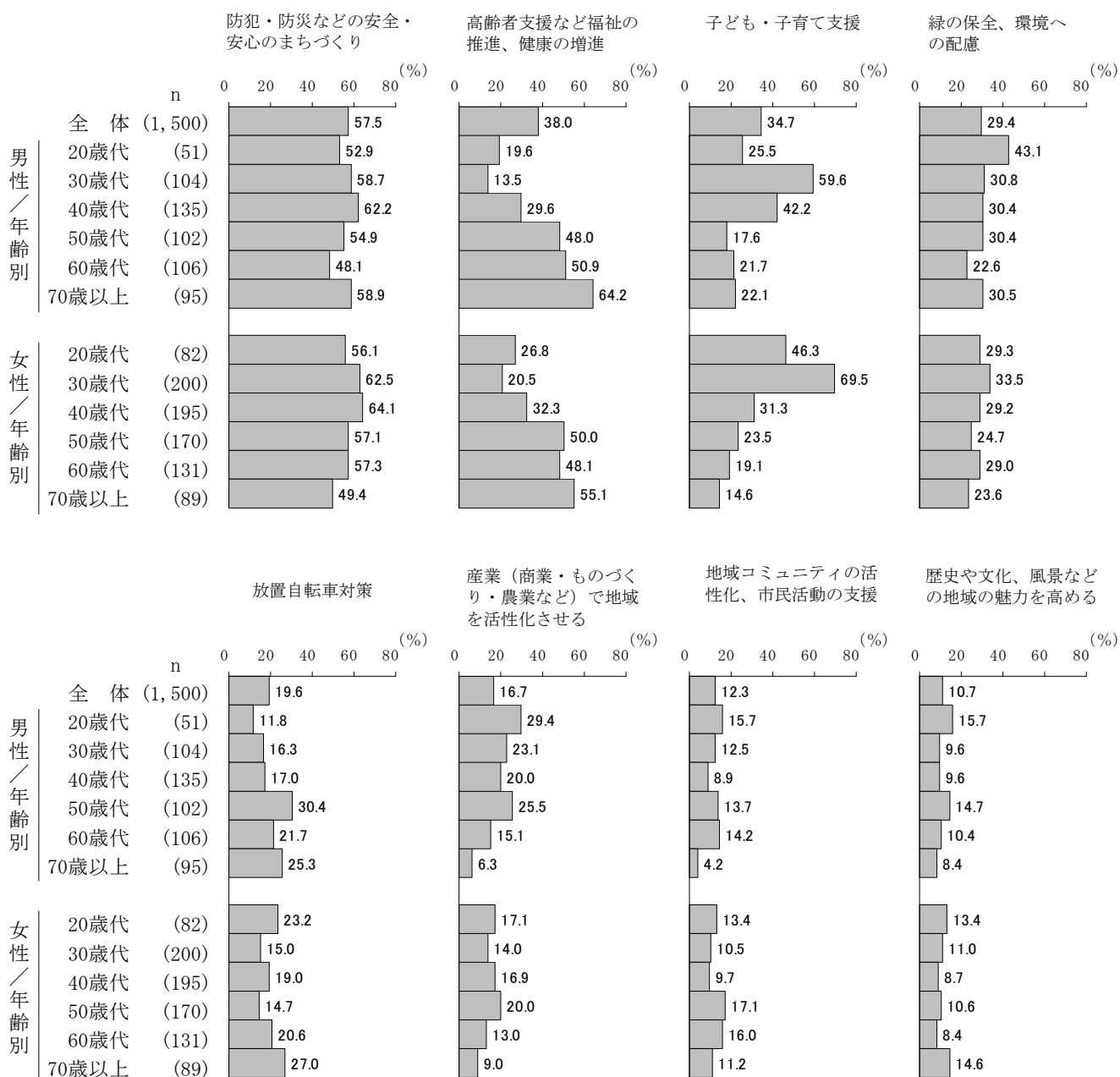
図表5-6 区民会議で取り上げてほしい地域の課題

(複数回答) n = (1,500)



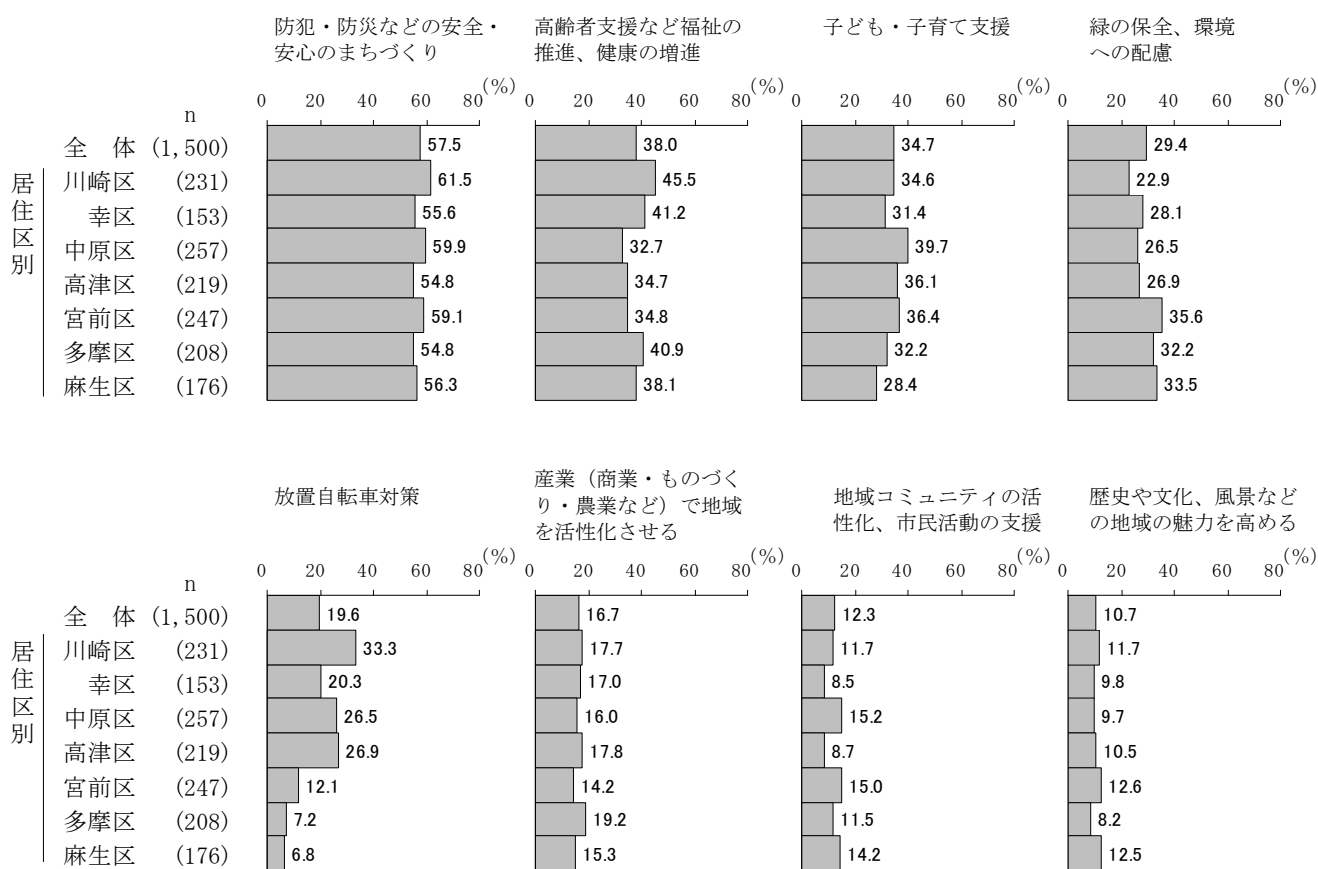
区民会議で取り上げてほしい地域の課題は、「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」(57.5%)が5割台後半と最も多くなっている。次いで、「高齢者支援など福祉の推進、健康の増進」(38.0%)、「子ども・子育て支援」(34.7%)、「緑の保全、環境への配慮」(29.4%)の順となっている。(図表5-6)

図表5-7 区民会議で取り上げてほしい地域の課題（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」は、男女ともに40歳代（男性：62.2%、女性：64.1%）が最も多くなっている。「高齢者支援など福祉の推進、健康の増進」は、男女ともに50歳代以上の年代が多くなっている。「子ども・子育て支援」は男女ともに30歳代（男性：59.6%、女性：69.5%）が最も多くなっている。「緑の保全、環境への配慮」は、男性20歳代（43.1%）が4割台と最も多くなっている。（図表5-7）

図表5-8 区民会議で取り上げてほしい地域の課題（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」は、川崎区（61.5%）が6割台と最も多くなっている。「高齢者支援など福祉の推進、健康の増進」は、川崎区（45.5%）が4割台半ばと最も多くなっている。「子ども・子育て支援」は、中原区（39.7%）が最も多くなっている。「緑の保全、環境への配慮」は、宮前区（35.6%）が最も多くなっている。（図表5-8）

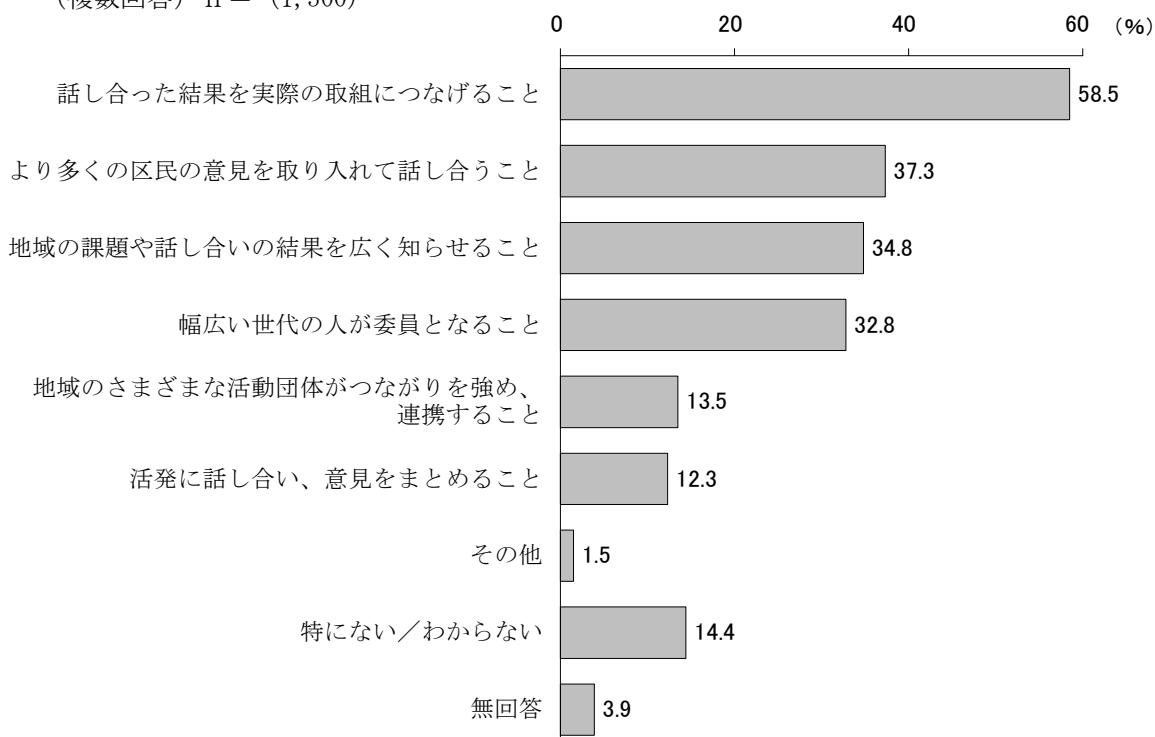
5-4 区民会議に期待していること

◎「話し合った結果を実際の実組につなげること」が58.5%

問14 区民会議に対して期待していることは何ですか。(〇は3つまで)

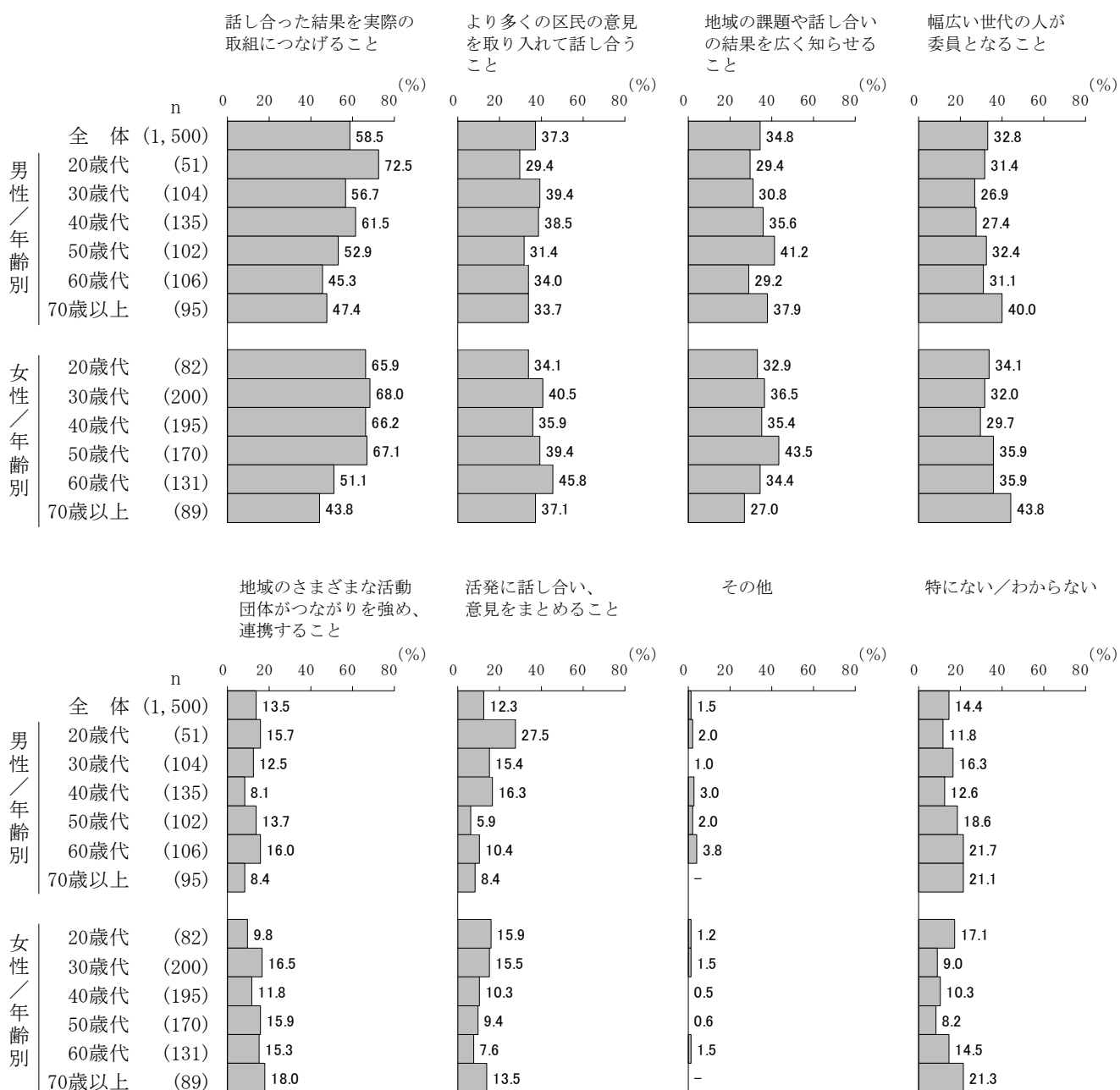
図表5-9 区民会議に期待していること

(複数回答) n = (1,500)



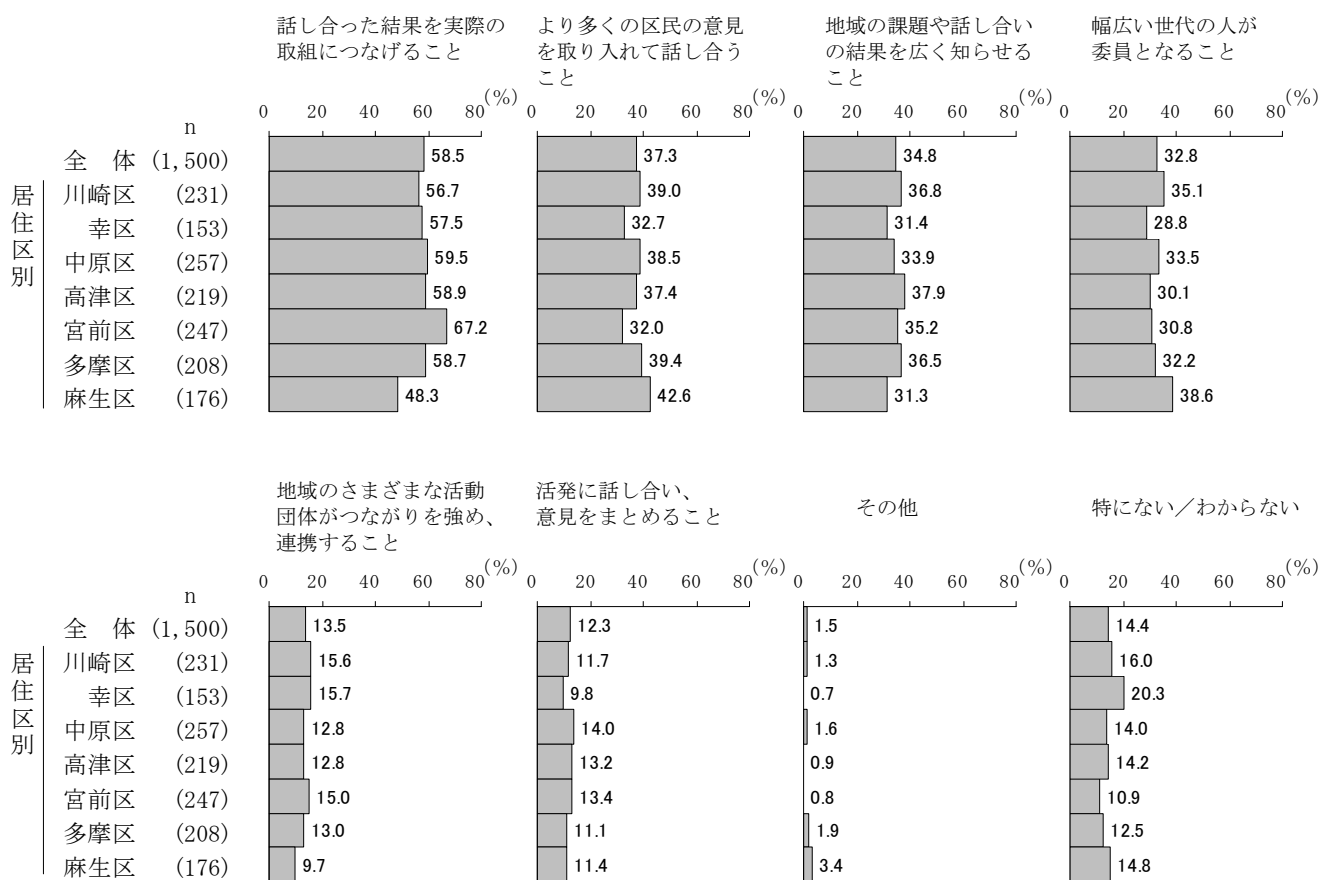
区民会議に期待していることは、「話し合った結果を実際の実組につなげること」(58.5%)が5割台後半と最も多くなっている。次いで、「より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと」(37.3%)、「地域の課題や話し合いの結果を広く知らせること」(34.8%)、「幅広い世代の人が委員となること」(32.8%)の順となっている。(図表5-9)

図表5-10 区民会議に期待していること (性/年齢別)



性/年齢別では、「話し合った結果を実際の取組につなげること」は、男性では20歳代(72.5%)が最も多く、女性では20歳代から50歳代が6割台後半と多くなっている。「より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと」は、男性では30歳代(39.4%)、40歳代(38.5%)が3割台後半と多くなっており、女性では60歳代(45.8%)が4割台半ばと最も多くなっている。「地域の課題や話し合いの結果を広く知らせること」は男女ともに50歳代(男性:41.2%、女性:43.5%)が最も多くなっている。「幅広い世代の人が委員となること」は男女ともに70歳以上(男性:40.0%、女性:43.8%)が最も多くなっている。(図表5-10)

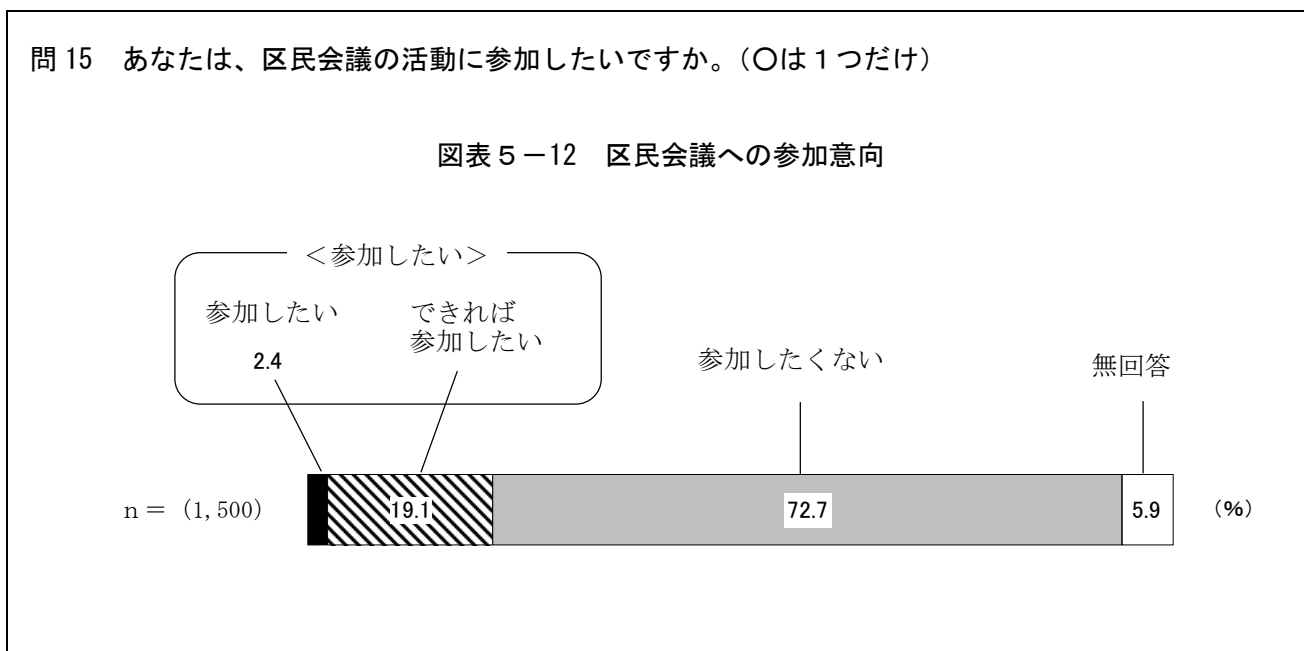
図表5-11 区民会議に期待していること (居住区別)



居住区別では、「話し合った結果を実際の取組につなげること」は、宮前区 (67.2%) が最も多くなっている。「より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと」は、麻生区 (42.6%) が最も多くなっている。「幅広い世代の人が委員となること」は麻生区 (38.6%) が最も多くなっている。(図表5-11)

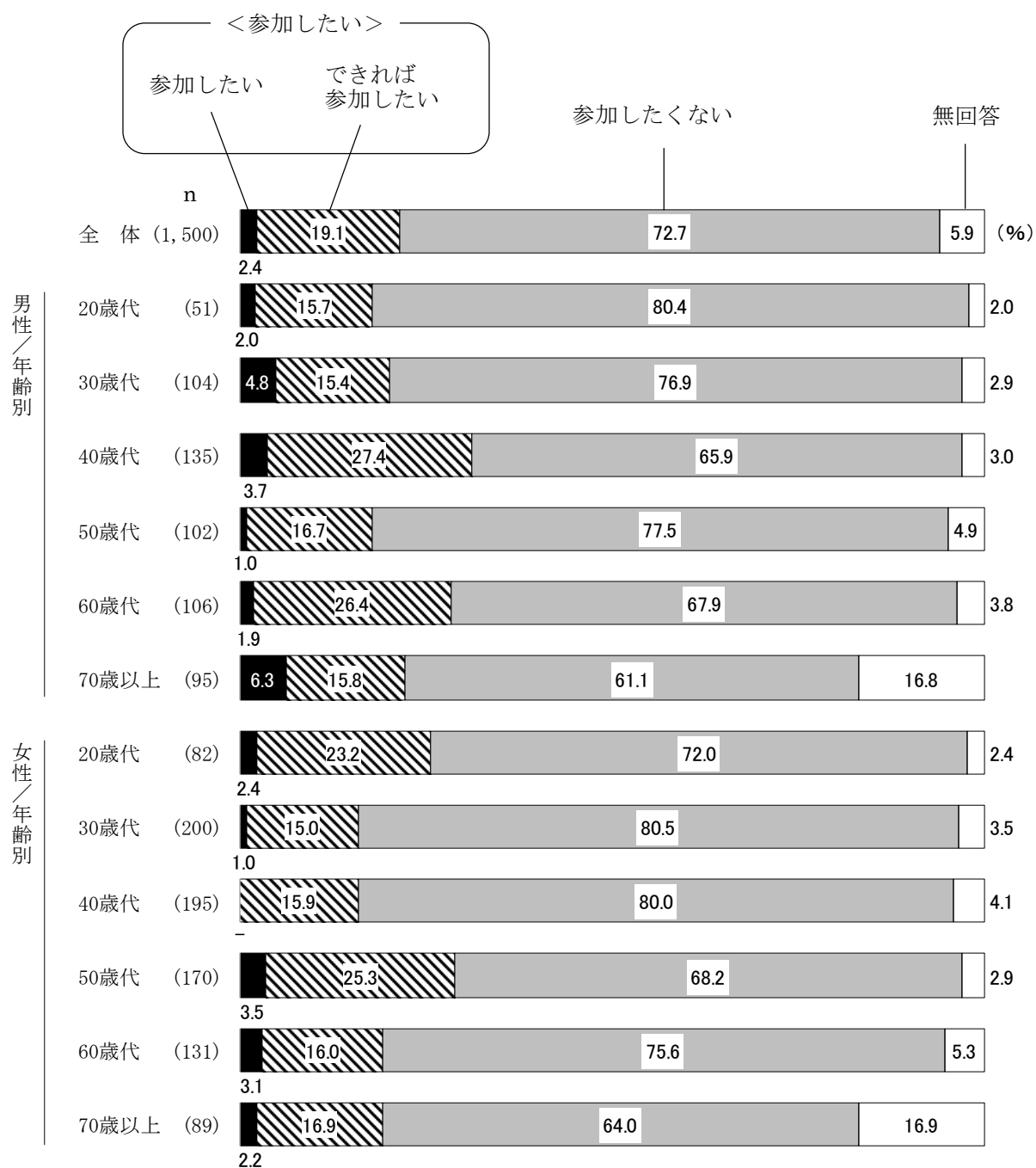
5-5 区民会議への参加意向

◎<参加したい>が21.5%



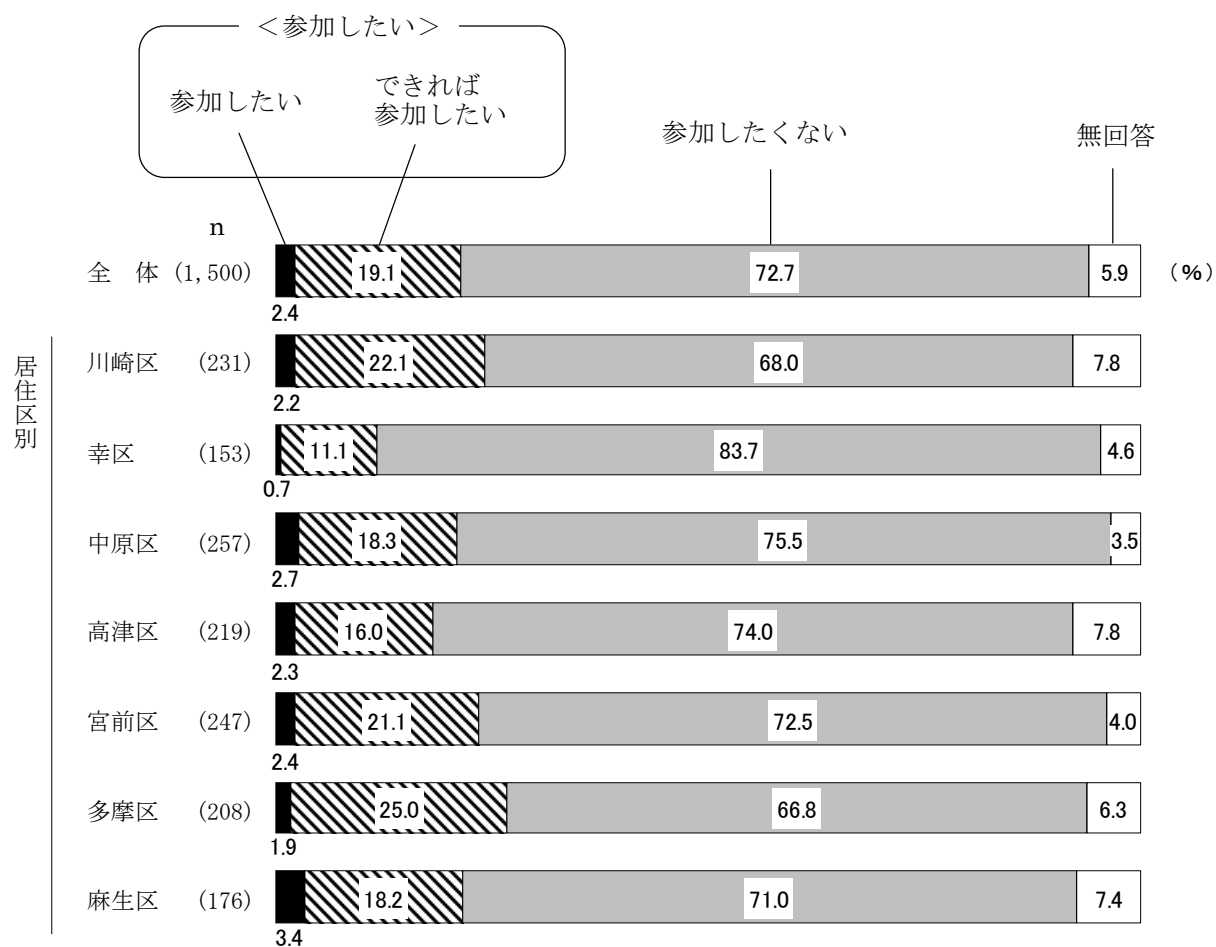
区民会議への参加意向は、「参加したい」(2.4%)と「できれば参加したい」(19.1%)をあわせて<参加したい>が21.5%となっている。一方、「参加したくない」(72.7%)は7割台となっている。(図表5-12)

図表5-13 区民会議への参加意向（性／年齢別）



性／年齢別では、＜参加したい＞は、男性では40歳代（31.1%）、60歳代（28.3%）が多くなっており、女性では20歳代（25.6%）、50歳代（28.8%）が多くなっている。一方、「参加したくない」は、男性では20歳代（80.4%）、女性では30歳代（80.5%）、40歳代（80.0%）が多くなっている。（図表5-13）

図表5-14 区民会議への参加意向（居住区別）



居住区別では、<参加したい>は、多摩区（26.9%）が最も多く、次いで川崎区（24.3%）、宮前区（23.5%）の順となっている。一方、「参加したくない」は、幸区（83.7%）が8割台と最も多くなっている。（図表5-14）

5-6 区民会議への参加方法

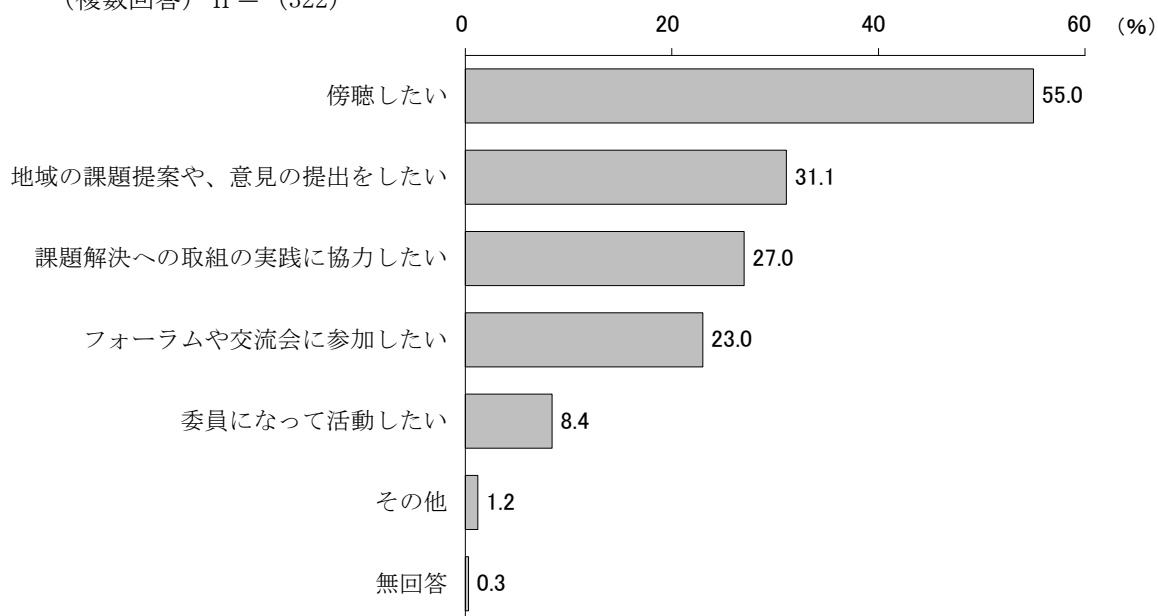
◎「傍聴したい」が55.0%

問 15-1 (問 15 で「1. 参加したい」「2. できれば参加したい」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

あなたは、区民会議についてどのような参加をしたいと思いますか。(〇は2つまで)

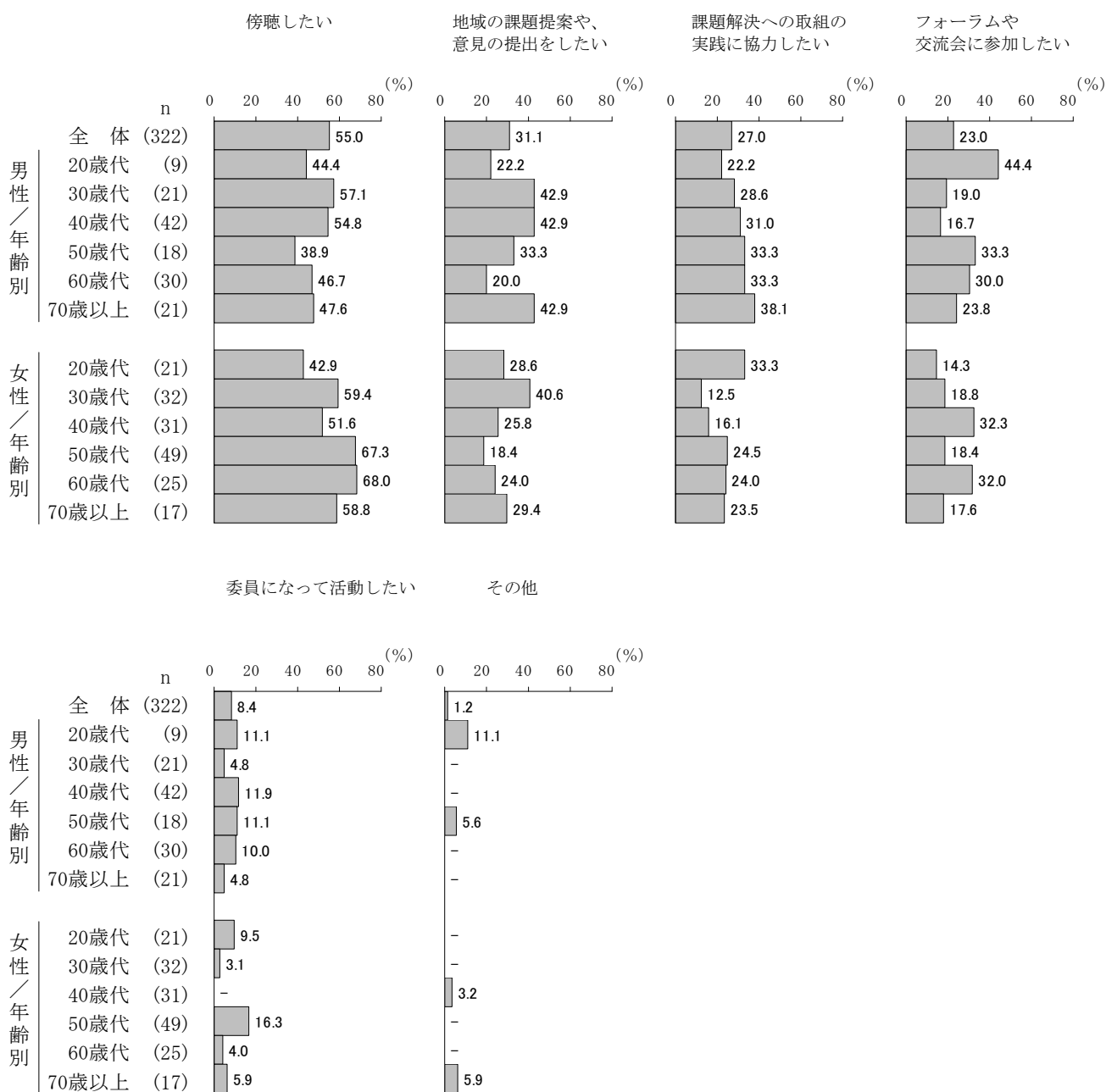
図表 5-15 区民会議への参加方法

(複数回答) n = (322)



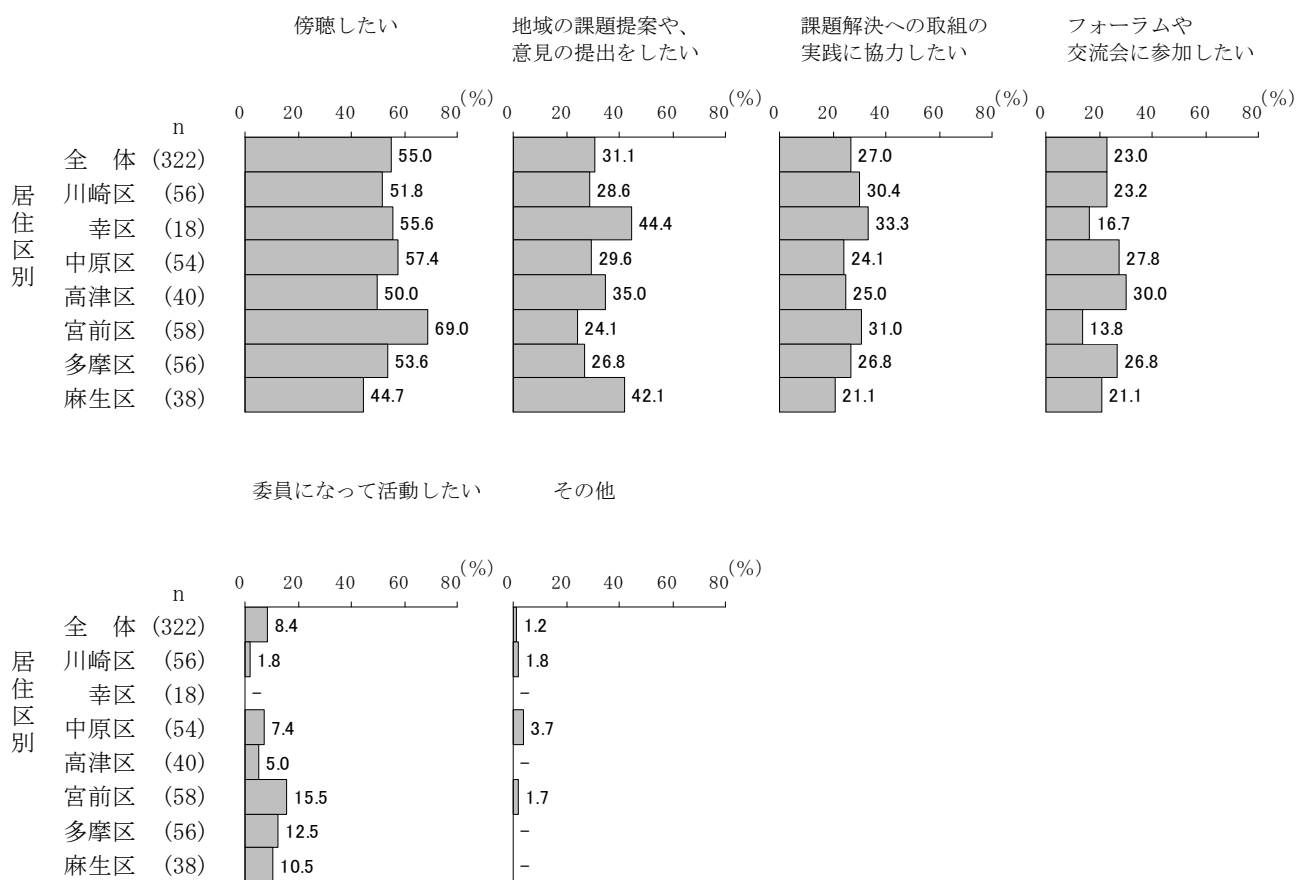
区民会議への参加方法は、「傍聴したい」(55.0%)が5割台半ばと最も多くなっている。次いで、「地域の課題提案や、意見の提出をしたい」(31.1%)、「課題解決への取組の実践に協力したい」(27.0%)、「フォーラムや交流会に参加したい」(23.0%)の順となっている。(図表5-15)

図表5-16 区民会議への参加方法（性／年齢別）



性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表5-16)

図表5-17 区民会議への参加方法（居住区別）



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表5-17)

5-7 区民会議に参加したくない理由

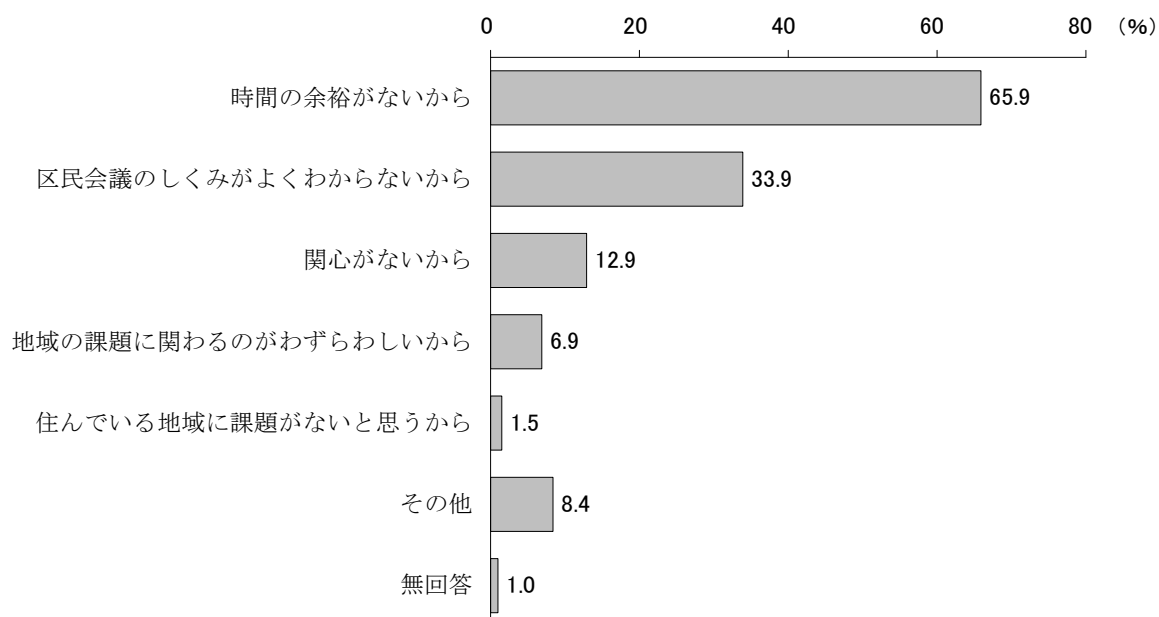
◎「時間の余裕がないから」が65.9%

問15-2 (問15で「3. 参加したくない」と答えた方にかがいます。)

あなたが、区民会議に参加したくないのはどのような理由からですか。(〇は2つまで)

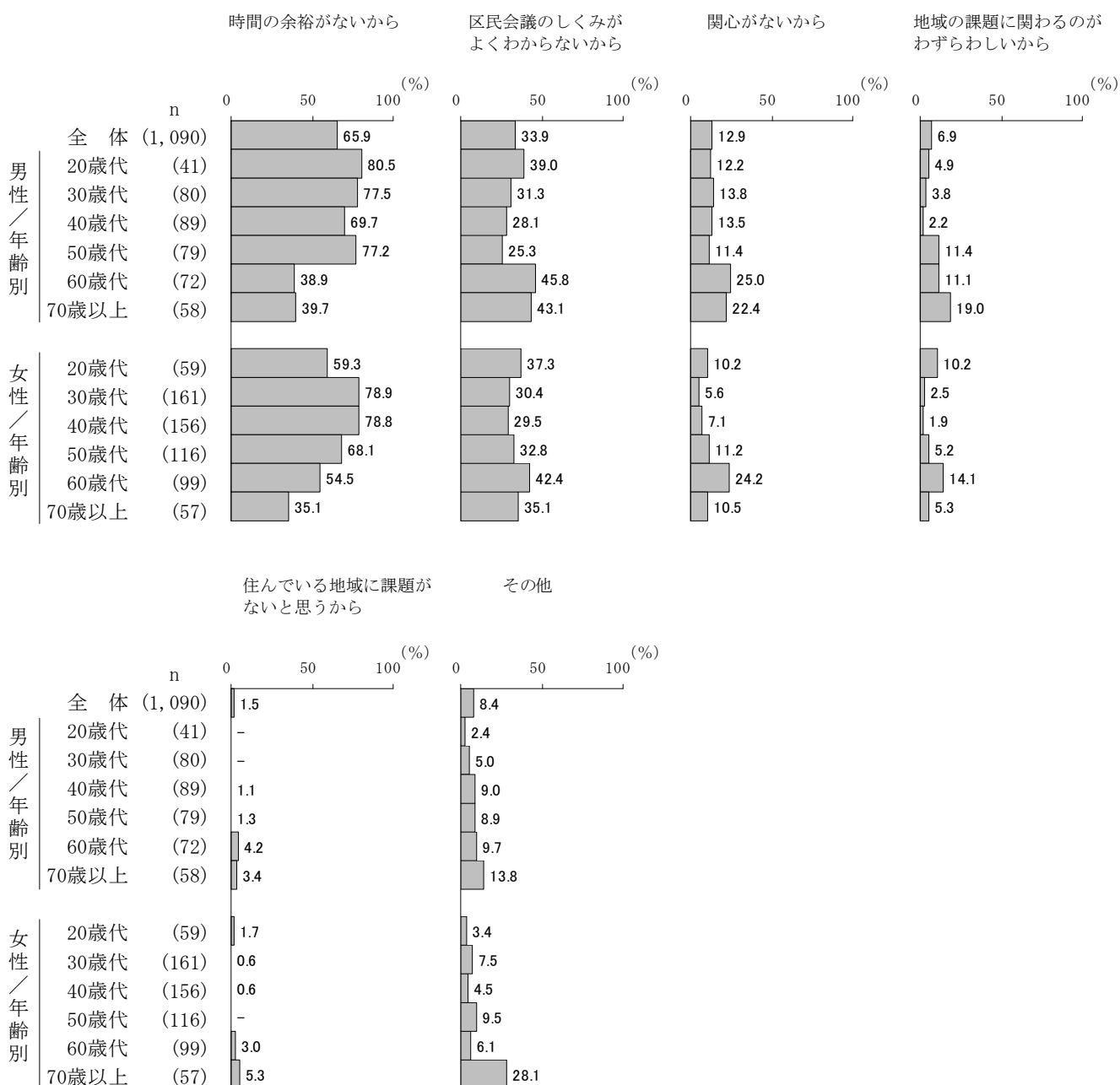
図表5-18 区民会議に参加したくない理由

(複数回答) n = (1,090)



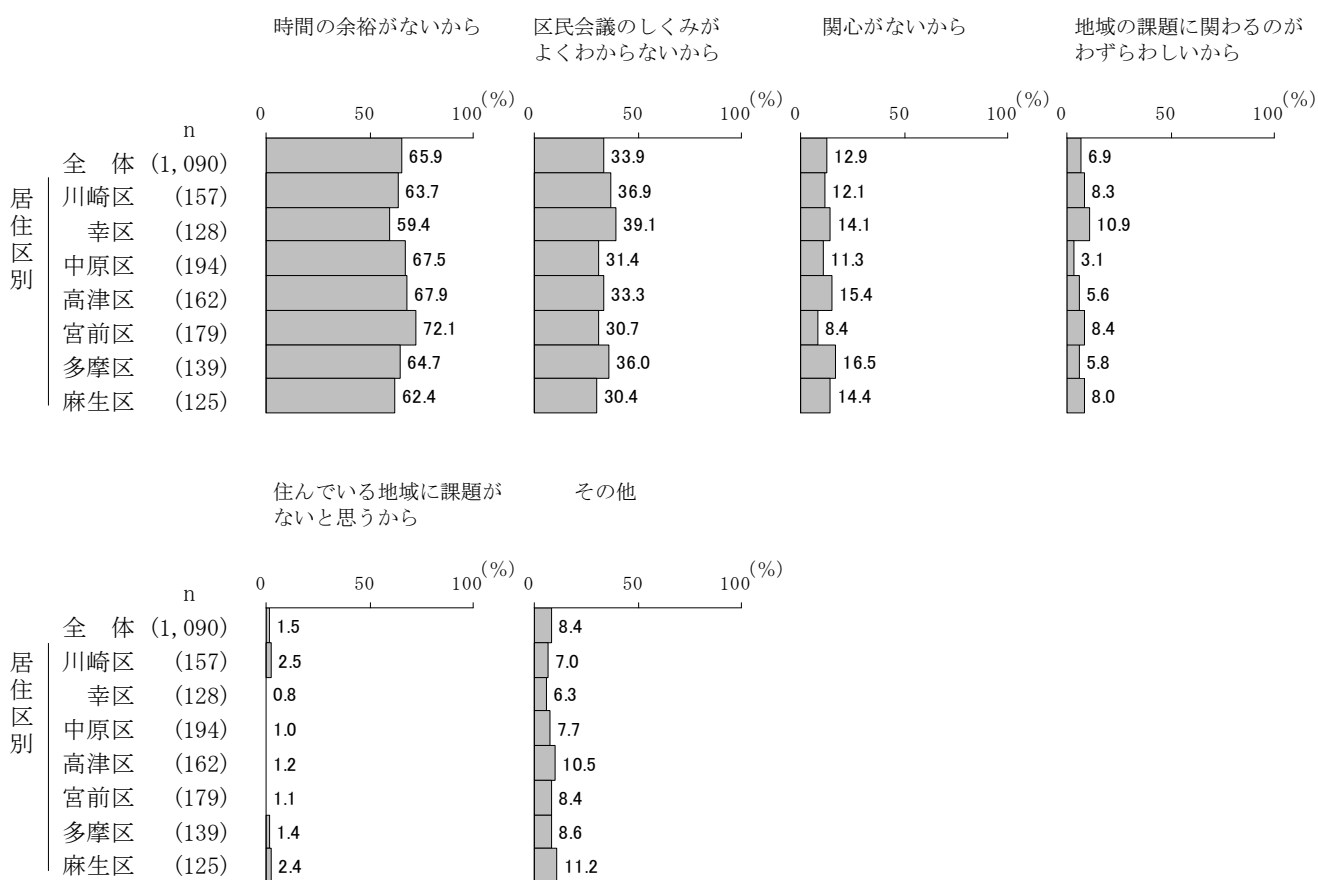
区民会議に参加したくない理由は、「時間の余裕がないから」(65.9%)が6割台半ばと最も多くなっている。次いで、「区民会議のしくみがよくわからないから」(33.9%)、「関心がないから」(12.9%)、「地域の課題に関わるのがわずらわしいから」(6.9%)の順となっている。(図表5-18)

図表5-19 区民会議に参加したくない理由(性/年齢別)



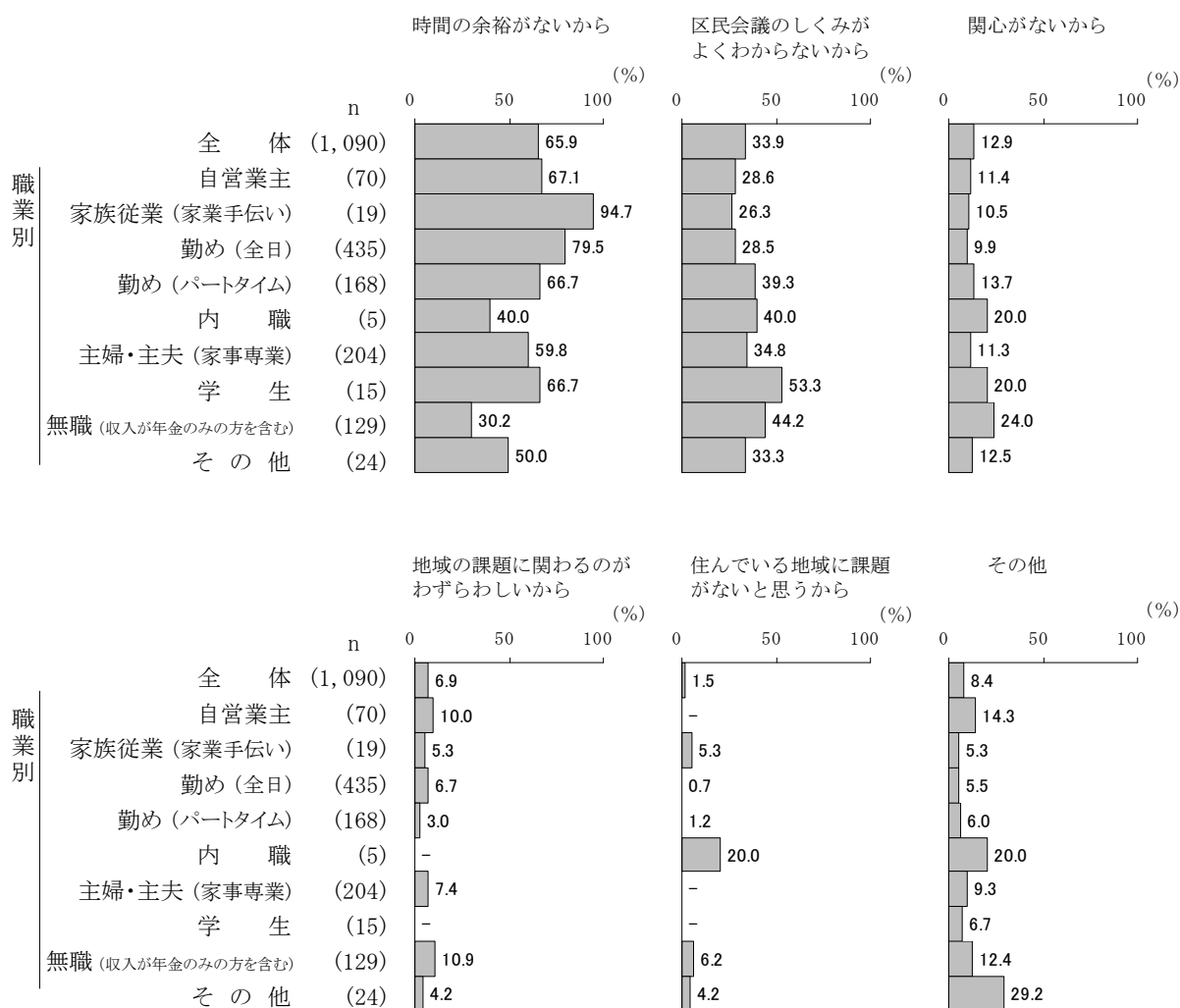
性/年齢別では、「時間の余裕がないから」は、男性では20歳代から50歳代が約7割から8割と多くっており、女性では30歳代(78.9%)、40歳代(78.8%)が7割台後半と多くになっている。「区民会議のしくみがよくわからないから」は、男性では60歳代(45.8%)と70歳以上(43.1%)、女性では60歳代(42.4%)が4割台と多くになっている。「関心がないから」は、男性では60歳代(25.0%)と70歳以上(22.4%)、女性では60歳代(24.2%)が2割台と多くになっている。(図表5-19)

図表5-20 区民会議に参加したくない理由（居住区別）



居住区別では、「時間の余裕がないから」は、宮前区（72.1%）が最も多くなっている。「区民会議のしくみがよくわからないから」は、幸区（39.1%）が最も多くなっている。「関心がないから」は、宮前区（8.4%）が最も少なくなっている。（図表5-20）

図表5-21 区民会議に参加したくない理由(職業別)



職業別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表5-21)

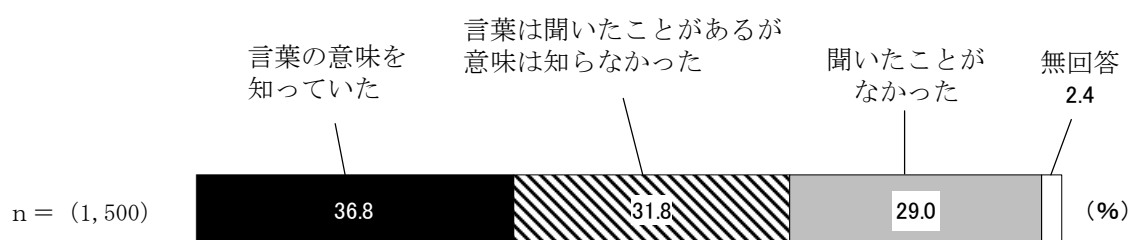
6 生物多様性について

6-1 「生物多様性」の認知状況

◎「言葉の意味を知っていた」が36.8%

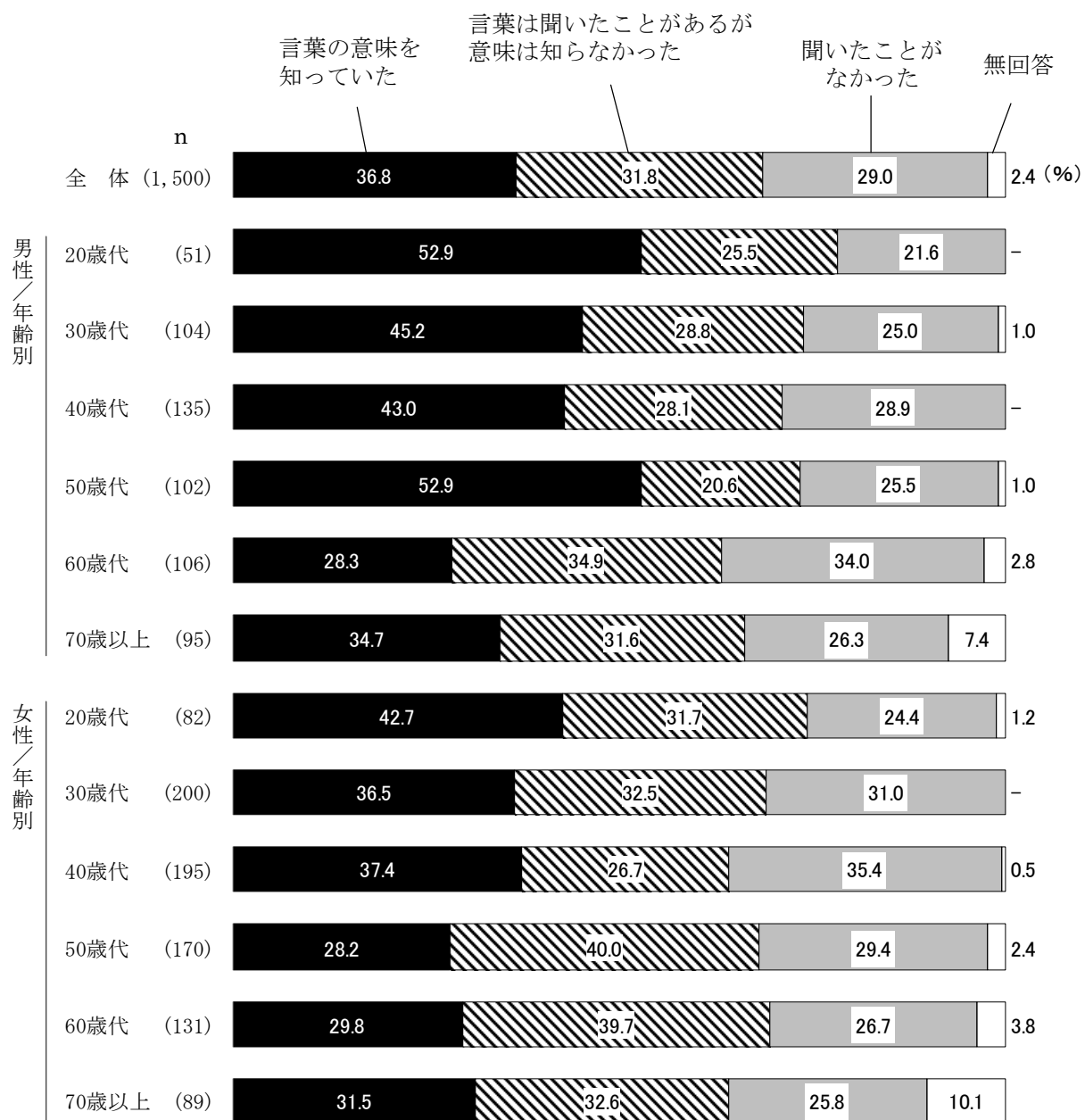
問16 「生物多様性」という言葉について、知っていましたか。(○は1つだけ)

図表6-1 「生物多様性」の認知状況



「生物多様性」の認知状況は、「言葉の意味を知っていた」が36.8%となっている。「言葉は聞いたことがあるが意味は知らなかった」は31.8%、「聞いたことがなかった」は29.0%となっている。(図表6-1)

図表6-2 「生物多様性」の認知状況(性/年齢別)



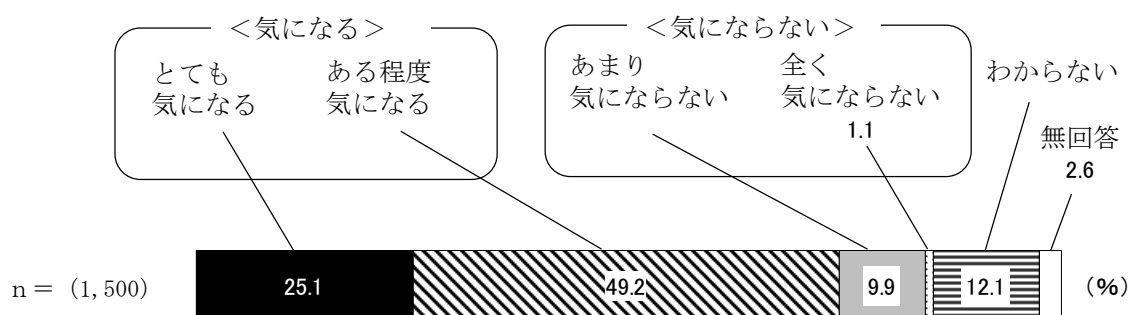
性/年齢別では、「言葉の意味を知っていた」は、男性では20歳代・50歳代(52.9%)が5割台と最も多くなっており、女性では20歳代(42.7%)が4割台と最も多くなっている。(図表6-2)

6-2 生物多様性の危機への現状認識について

◎<気になる>が74.3%

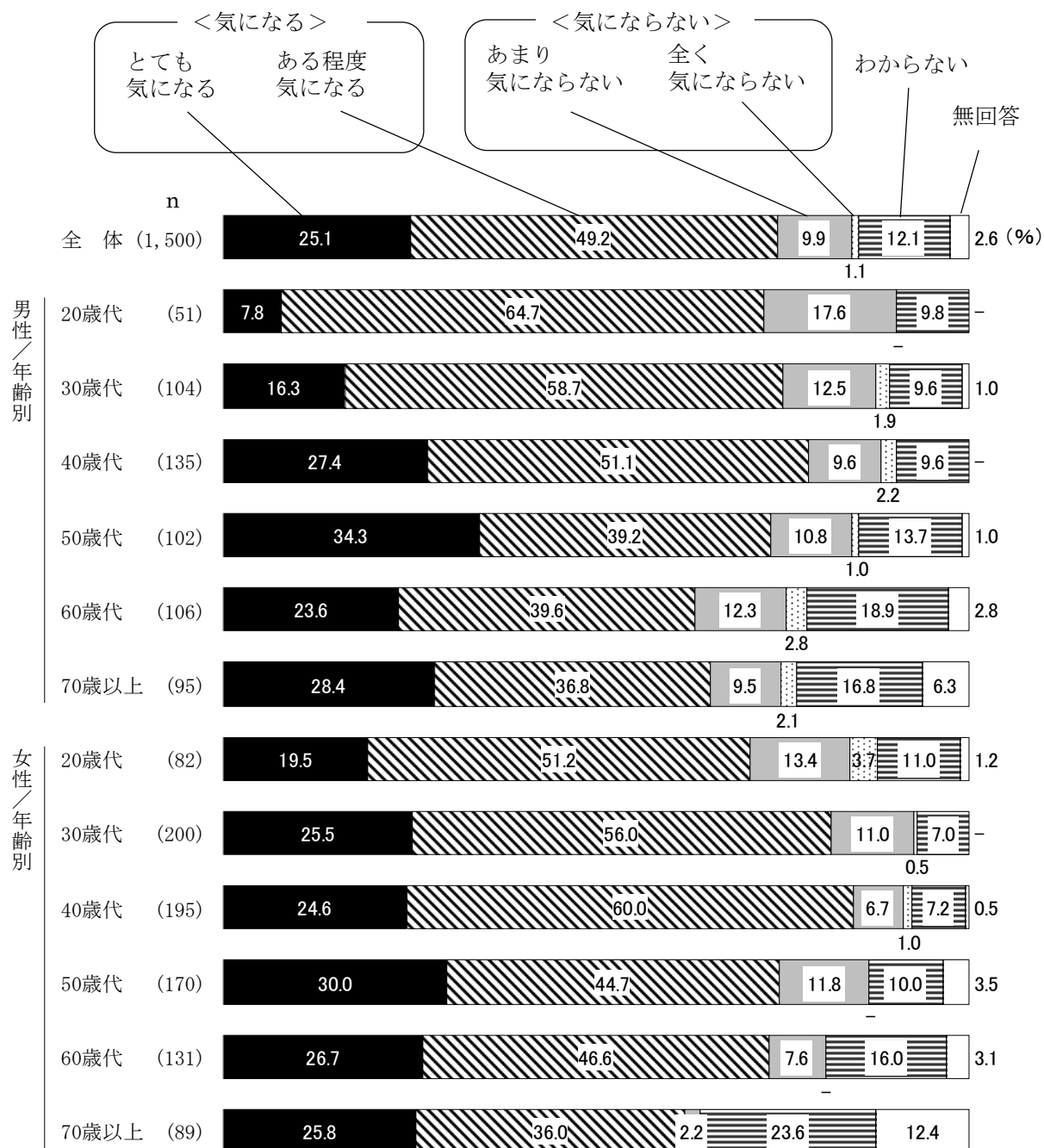
問17 生物多様性が危機に瀕していると言われていますが、生物多様性の現状についてどう思いますか。(〇は1つだけ)

図表6-3 生物多様性の危機への現状認識について



生物多様性の危機への現状認識は、「とても気になる」(25.1%)と「ある程度気になる」(49.2%)をあわせた<気になる>が74.3%となっている。一方、「あまり気にならない」(9.9%)と「全く気にならない」(1.1%)をあわせた<気にならない>は11.0%となっている。(図表6-3)

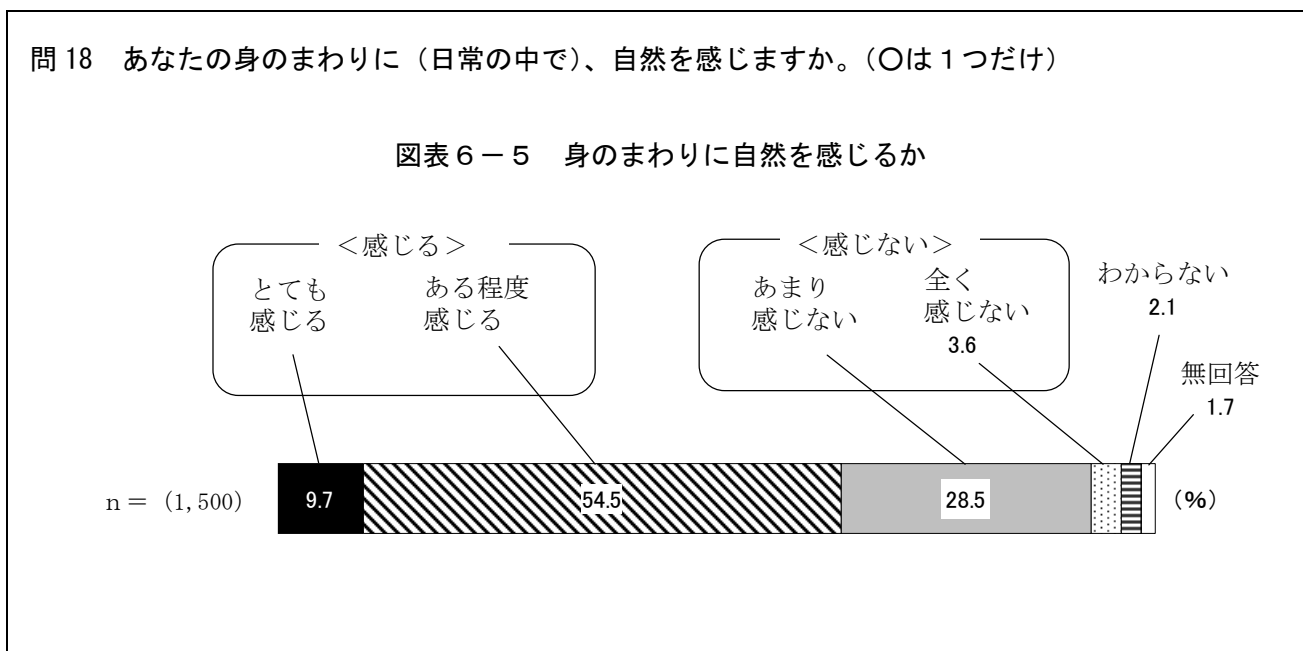
図表6-4 生物多様性の危機への現状認識について(性/年齢別)



性/年齢別では、<気になる>は、男性では40歳代(78.5%)が7割台後半と最も多く、女性では30歳代(81.5%)、40歳代(84.6%)が8割台と多くなっている。また、「とても気になる」は、男女ともに50歳代(男性:34.3%、女性:30.0%)が最も多く、20歳代(男性:7.8%、女性:19.5%)が最も少なくなっている。(図表6-4)

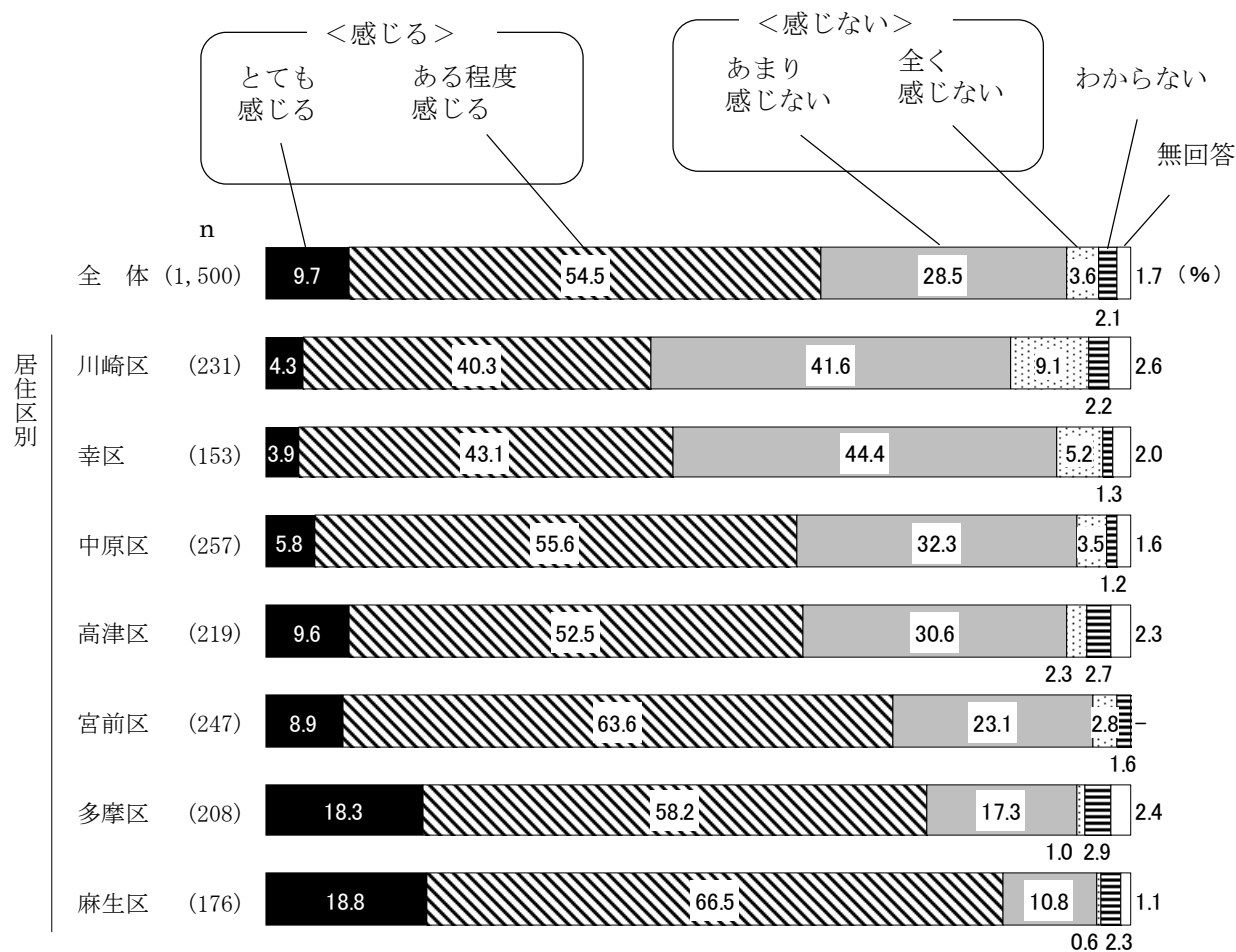
6-3 身のまわりに自然を感じるか

◎<感じる>が64.2%



身のまわりに自然を感じるかについては、「とても感じる」(9.7%)と「ある程度感じる」(54.5%)をあわせた<感じる>が64.2%となっている。一方、「あまり感じない」(28.5%)と「全く感じない」(3.6%)をあわせた<感じない>は32.1%となっている。(図表6-5)

図表6-6 身のまわりに自然を感じるか(居住区別)

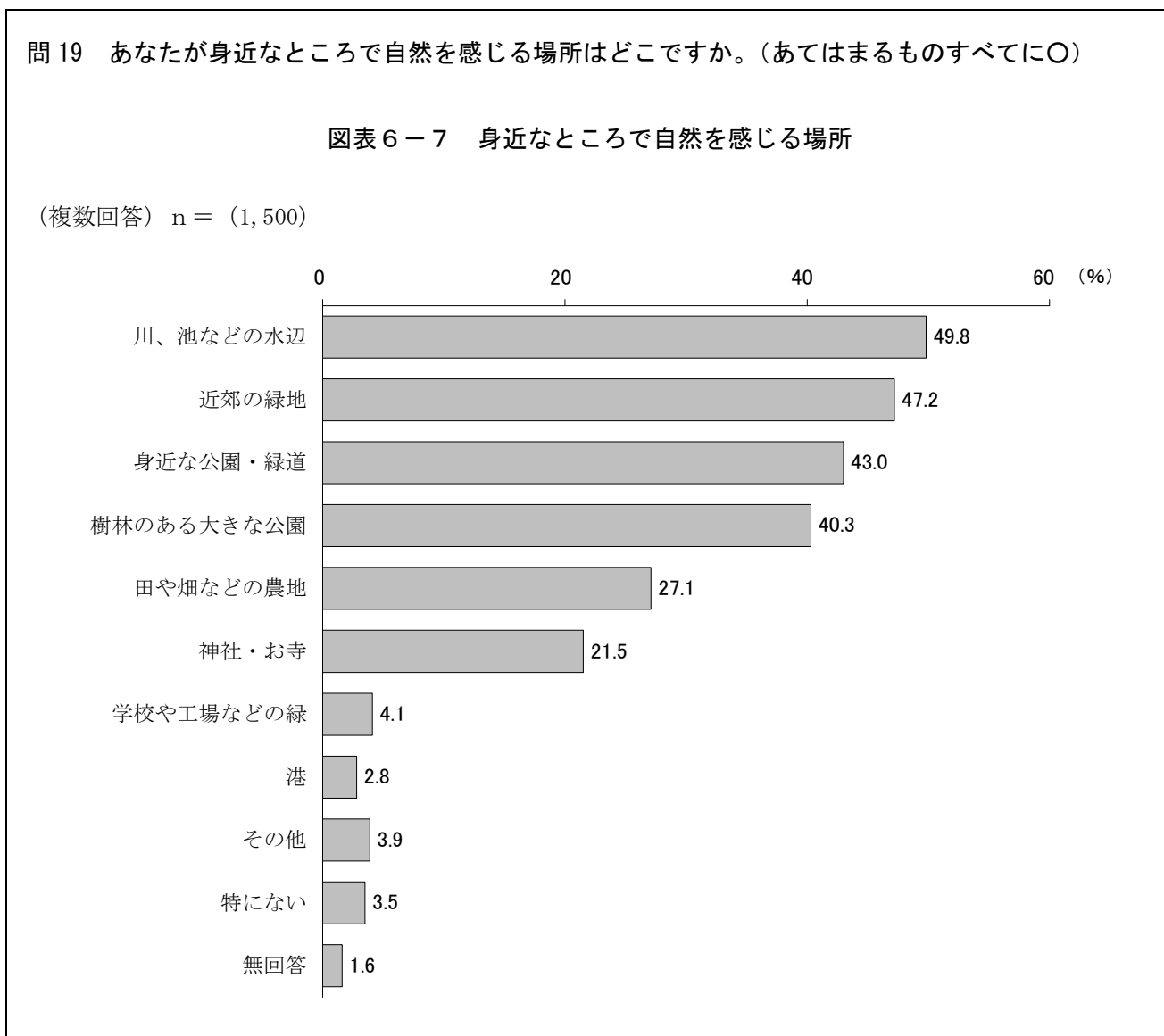


居住区別では、「とても感じる」と「ある程度感じる」をあわせた<感じる>は、麻生区(85.3%)が8割台半ばと最も多くなっている。次いで、多摩区(76.5%)、宮前区(72.5%)の順となっており、高津区(62.1%)、中原区(61.4%)でも過半を超えている。一方、「あまり感じない」あるいは「全く感じない」と回答した市民は、川崎区(50.7%)、幸区(49.6%)で多くなっている。

(図表6-6)

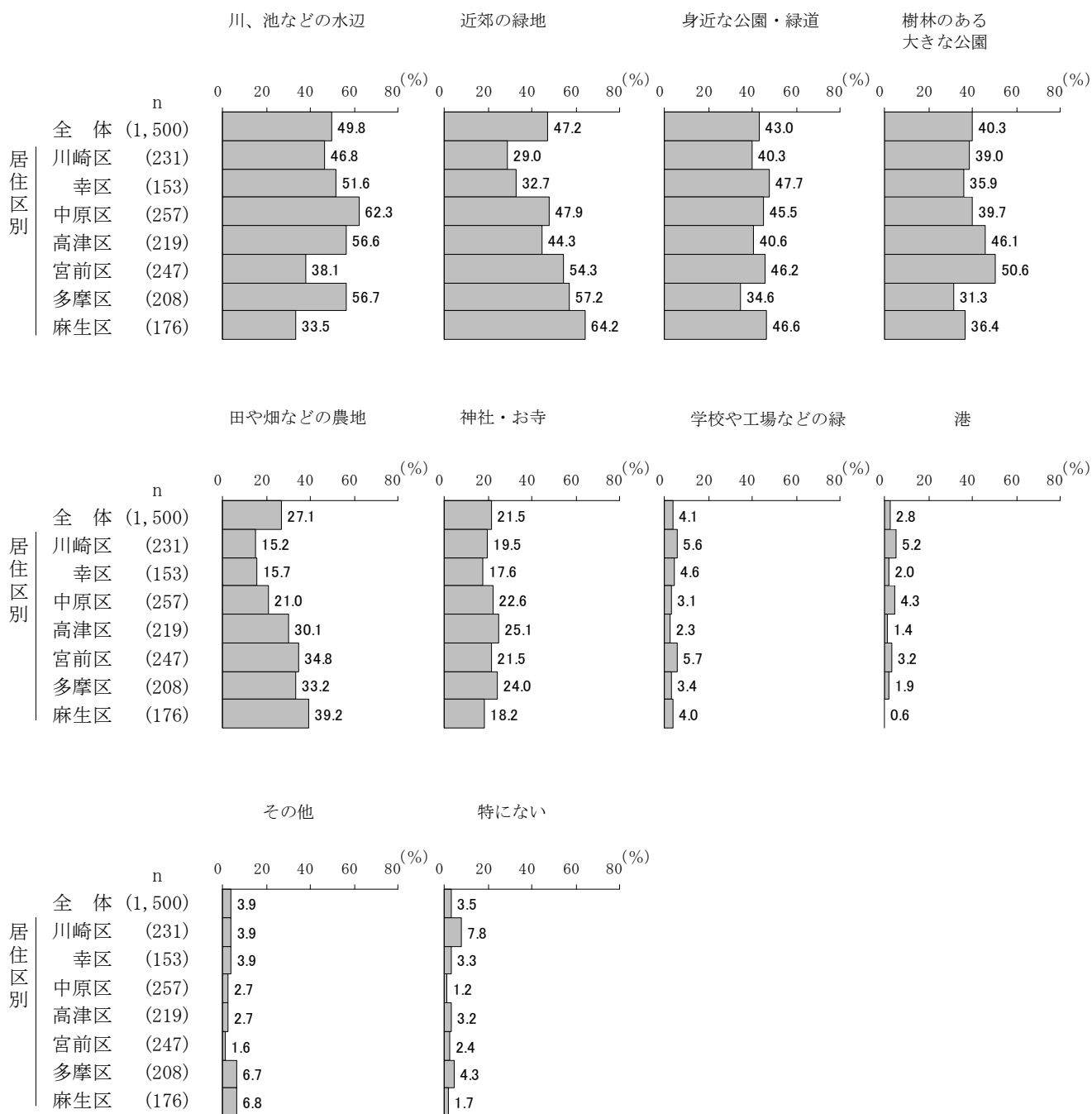
6-4 身近なところで自然を感じる場所

◎「川、池などの水辺」が49.8%、「近郊の緑地」が47.2%



身近なところで自然を感じる場所は、「川、池などの水辺」(49.8%)が最も多くなっている。次いで、「近郊の緑地」(47.2%)、「身近な公園・緑道」(43.0%)、「樹林のある大きな公園」(40.3%)の順となっている。(図表6-7)

図表6-8 身近なところで自然を感じる場所（居住区別）



居住区別では、「川、池などの水辺」は、中原区（62.3%）が最も多くなっている。「近郊の緑地」は、麻生区（64.2%）が最も多くなっている。「樹林のある大きな公園」は、宮前区（50.6%）が最も多くなっている。（図表6-8）

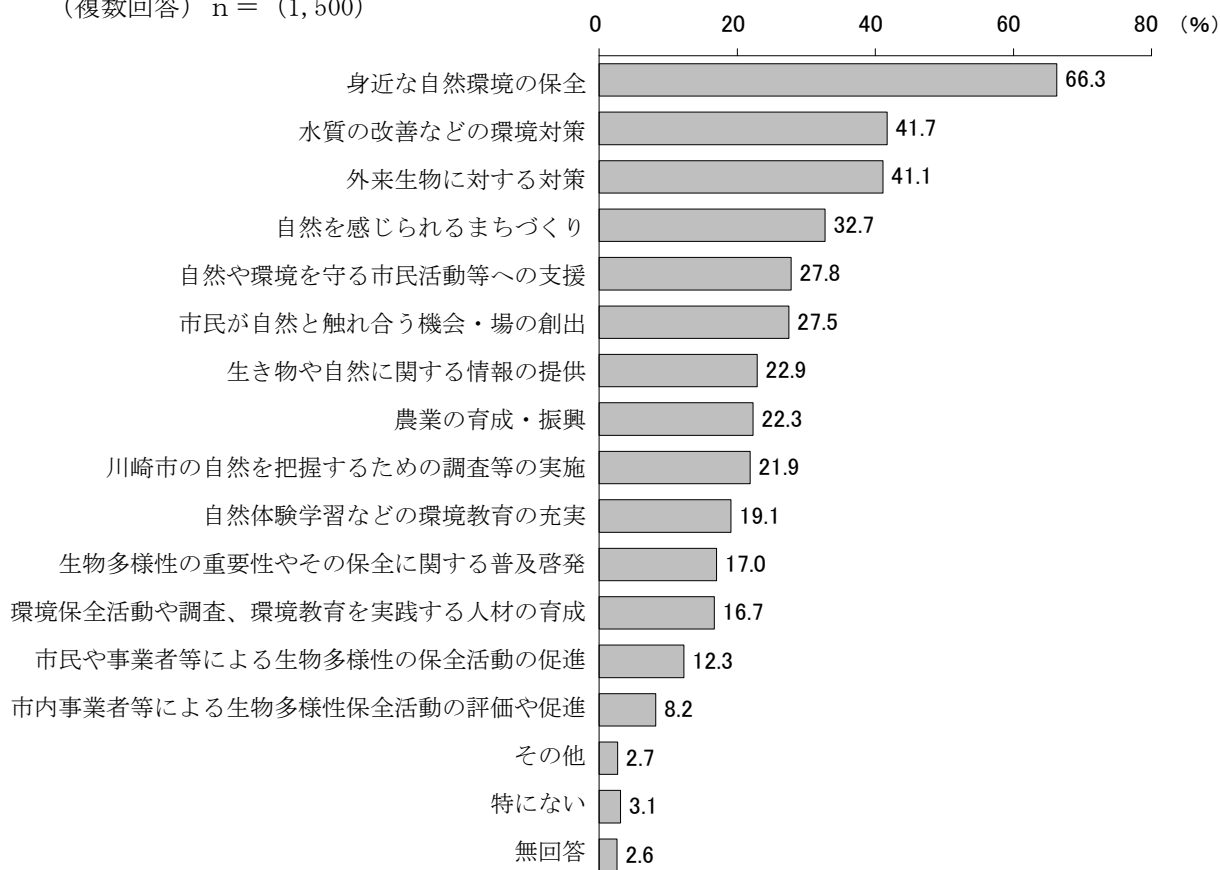
6-5 生き物や自然環境を守るために市が取り組むべきこと

◎「身近な自然環境の保全」が66.3%

問20 生き物や自然環境を守るために市が取り組むべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

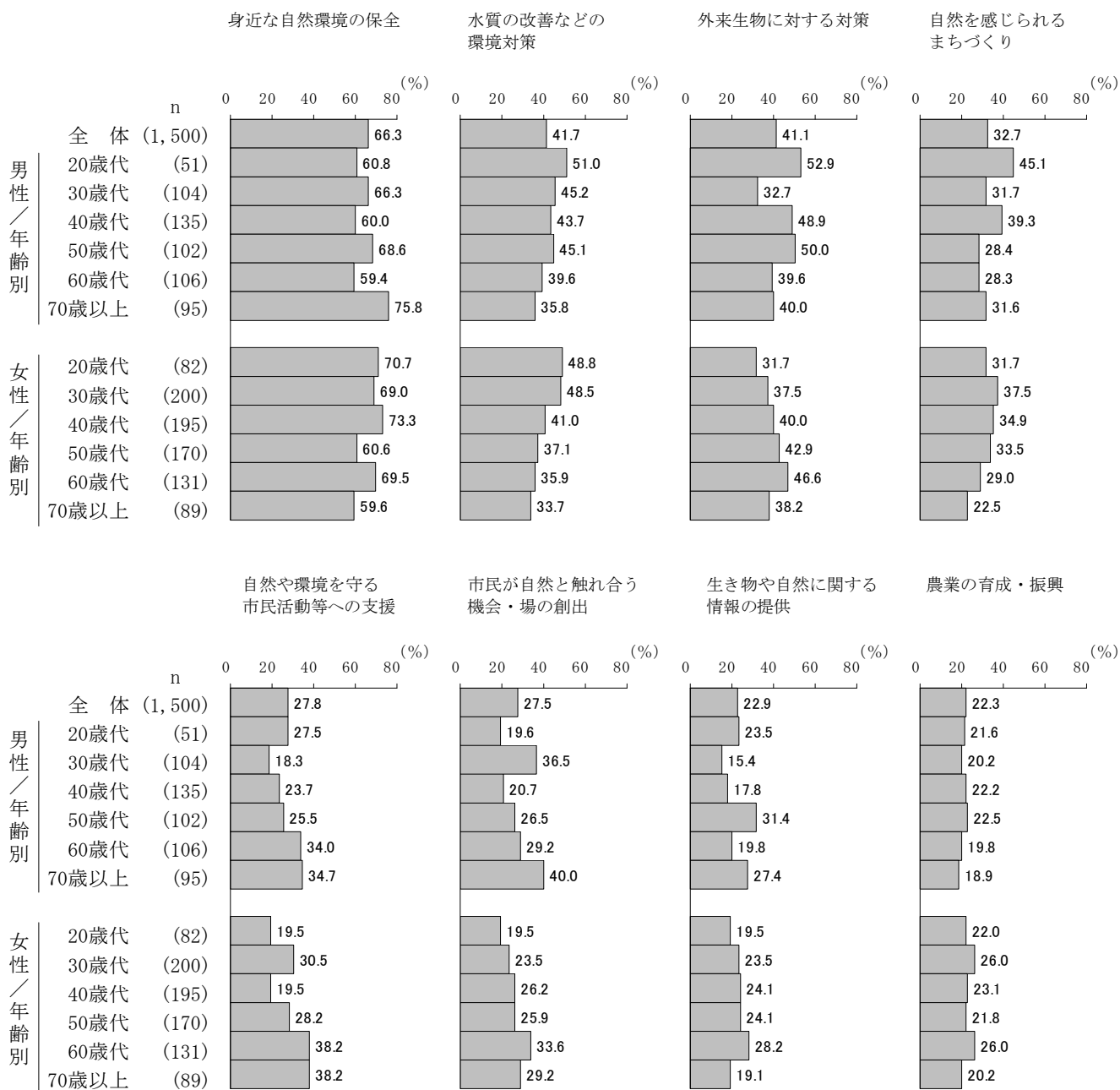
図表6-9 生き物や自然環境を守るために市が取り組むべきこと

(複数回答) n = (1,500)



生き物や自然環境を守るために市が取り組むべきことは、「身近な自然環境の保全」(66.3%)が6割台半ばと最も多くなっている。次いで、「水質の改善などの環境対策」(41.7%)、「外来生物に対する対策」(41.1%)、「自然を感じられるまちづくり」(32.7%)の順となっている。(図表6-9)

図表6-10 生き物や自然環境を守るために市が取り組むべきこと（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「身近な自然環境の保全」は、男性では70歳以上（75.8%）、女性では40歳代（73.3%）が最も多くなっている。「水質の改善などの環境対策」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなっている。「外来生物に対する対策」は、男性では20歳代（52.9%）、40歳代（48.9%）、50歳代（50.0%）が多くなっており、女性では60歳代（46.6%）が最も多くなっている。「自然を感じられるまちづくり」は、男性20歳代（45.1%）が最も多くなっている。（図表6-10）

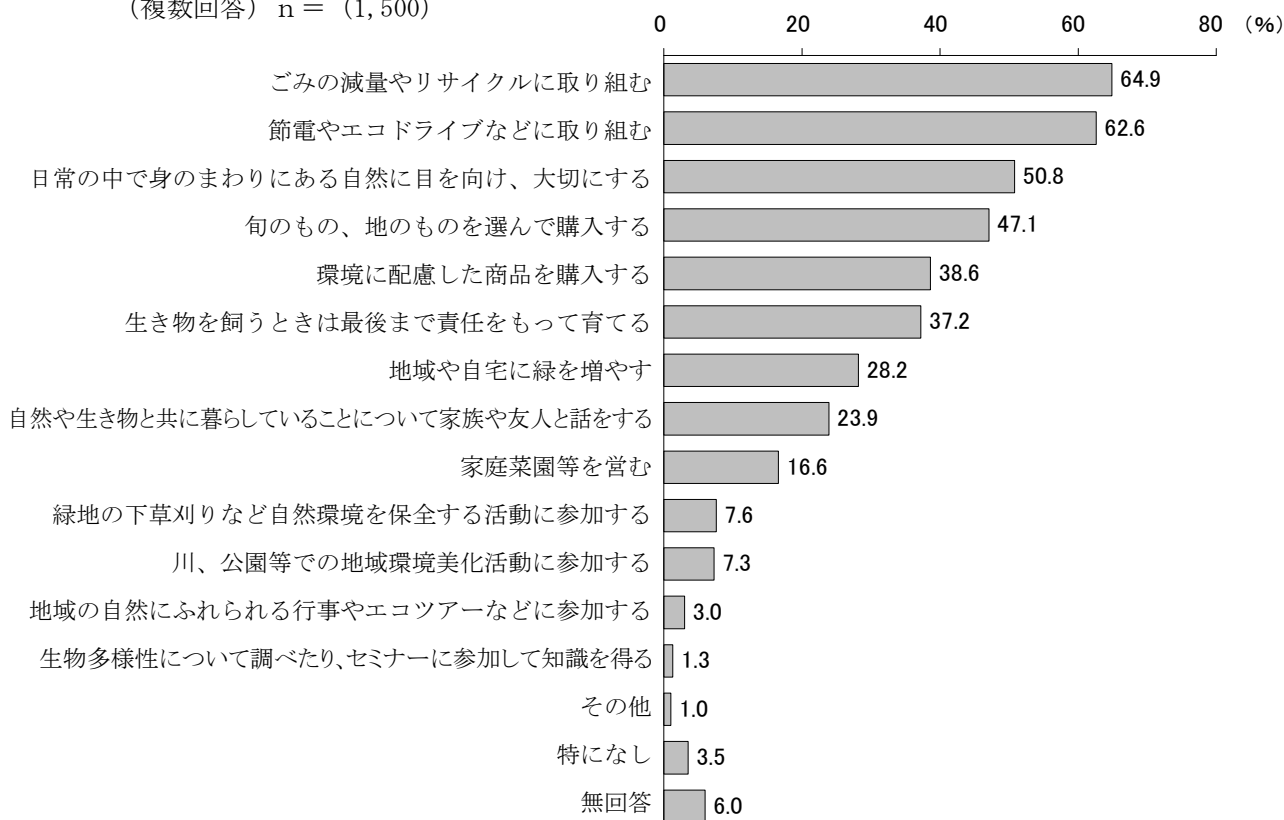
6-6 生き物や自然環境を守るために現在個人として取り組んでいること

◎「ごみの減量やリサイクルに取り組む」が64.9%、「節電やエコドライブなどに取り組む」が62.6%

問21 生き物や自然環境を守るためには、個人一人ひとりの取組も大切であるといわれています。そこで、生き物や自然を守るために、
(1) 現在あなたが実際に行っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表6-11 生き物や自然環境を守るために現在個人として取り組んでいること

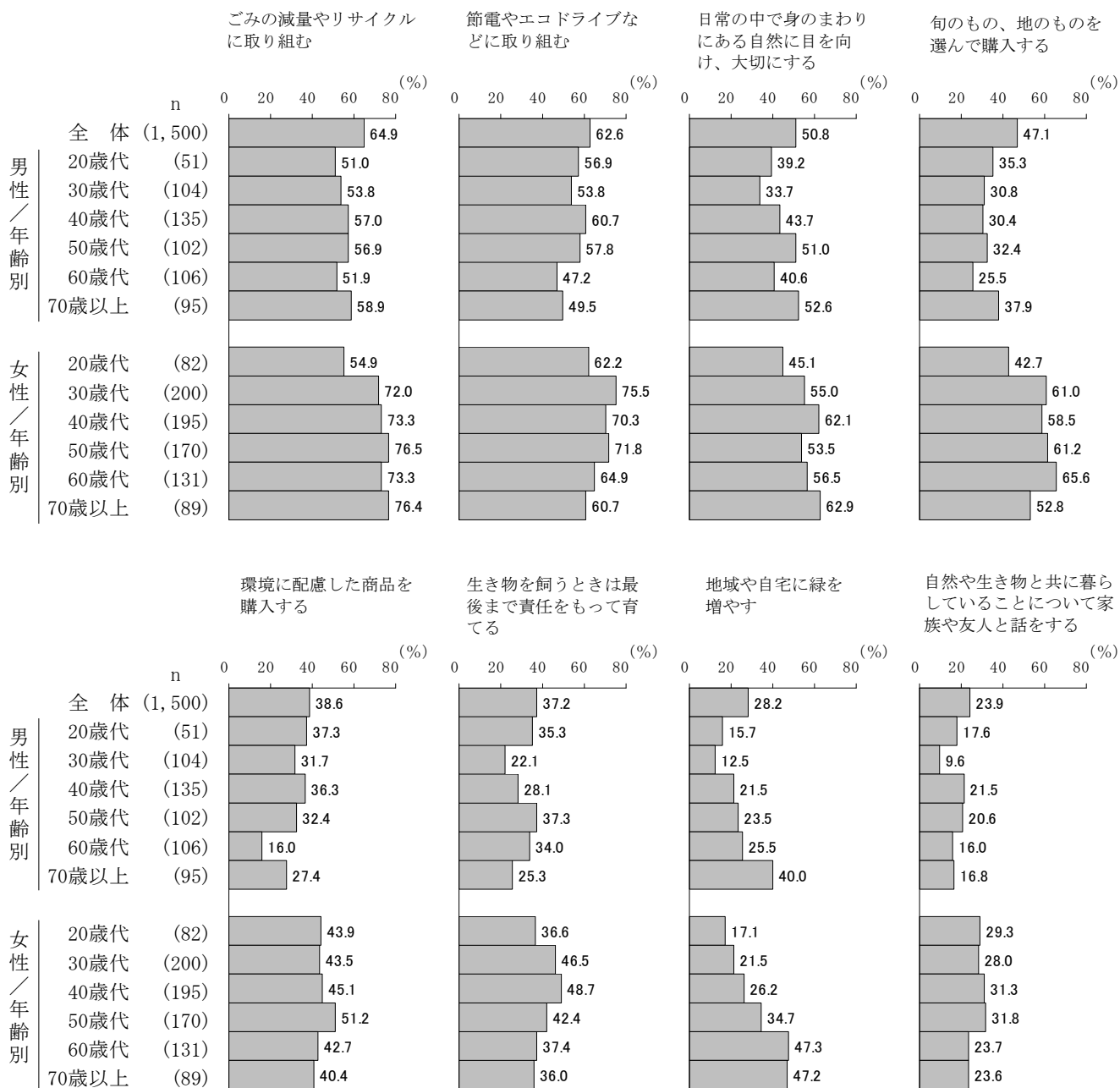
(複数回答) n = (1,500)



生き物や自然環境を守るために現在個人として取り組んでいることは、「ごみの減量やリサイクルに取り組む」(64.9%)、「節電やエコドライブなどに取り組む」(62.6%)が6割台と多くなっている。次いで、「日常の中で身のまわりにある自然に目を向け、大切にす」(50.8%)、「旬のもの、地のものを選んで購入する」(47.1%)、「環境に配慮した商品を購入する」(38.6%)、「生き物を飼うときは最後まで責任をもって育てる」(37.2%)の順となっている。(図表6-11)

図表6-12 生き物や自然環境を守るために現在個人として取り組んでいること

(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「ごみの減量やリサイクルに取り組む」は、女性の30歳代以上の年代が7割台と多くなっている。「節電やエコドライブなどに取り組む」は、女性の30歳代から50歳代が7割台と多くなっている。「日常の中で身のまわりにある自然に目を向け、大切にす」は、女性の40歳代(62.1%)、70歳以上(62.9%)が6割台と多くなっている。「旬のもの、地のものを選んで購入する」は、女性60歳代(65.6%)が6割台半ばと最も多くなっている。(図表6-12)

6-7 生き物や自然環境を守るために今後個人としてできると思うこと

◎「川、公園等での地域環境美化活動に参加する」が27.8%

問21 生き物や自然環境を守るためには、個人一人ひとりの取組も大切であるといわれています。

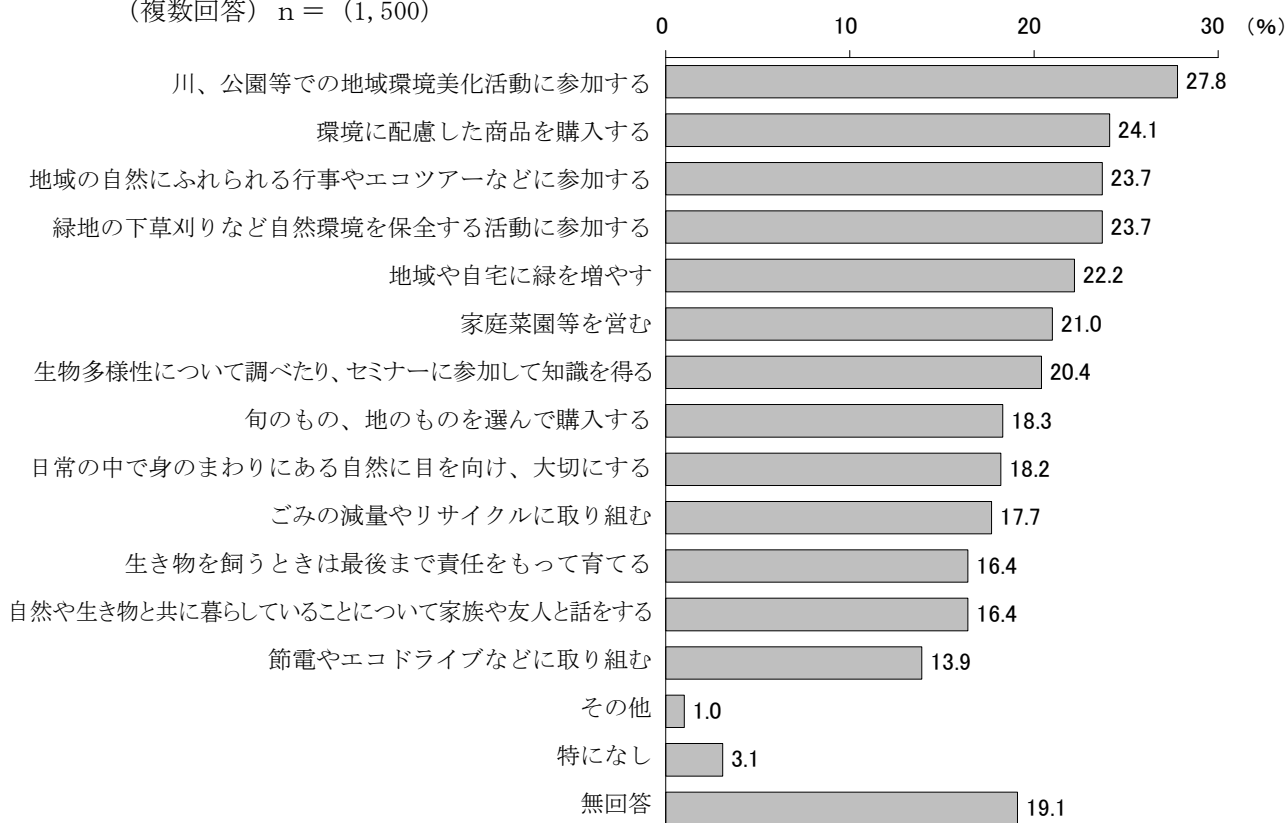
そこで、生き物や自然を守るために、

(2) 現在行っていること以外で、今後あなたにできることは何だと思いませんか。

((1) で選択した項目を除き、あてはまるものすべてに○)

図表6-13 生き物や自然環境を守るために今後個人としてできると思うこと

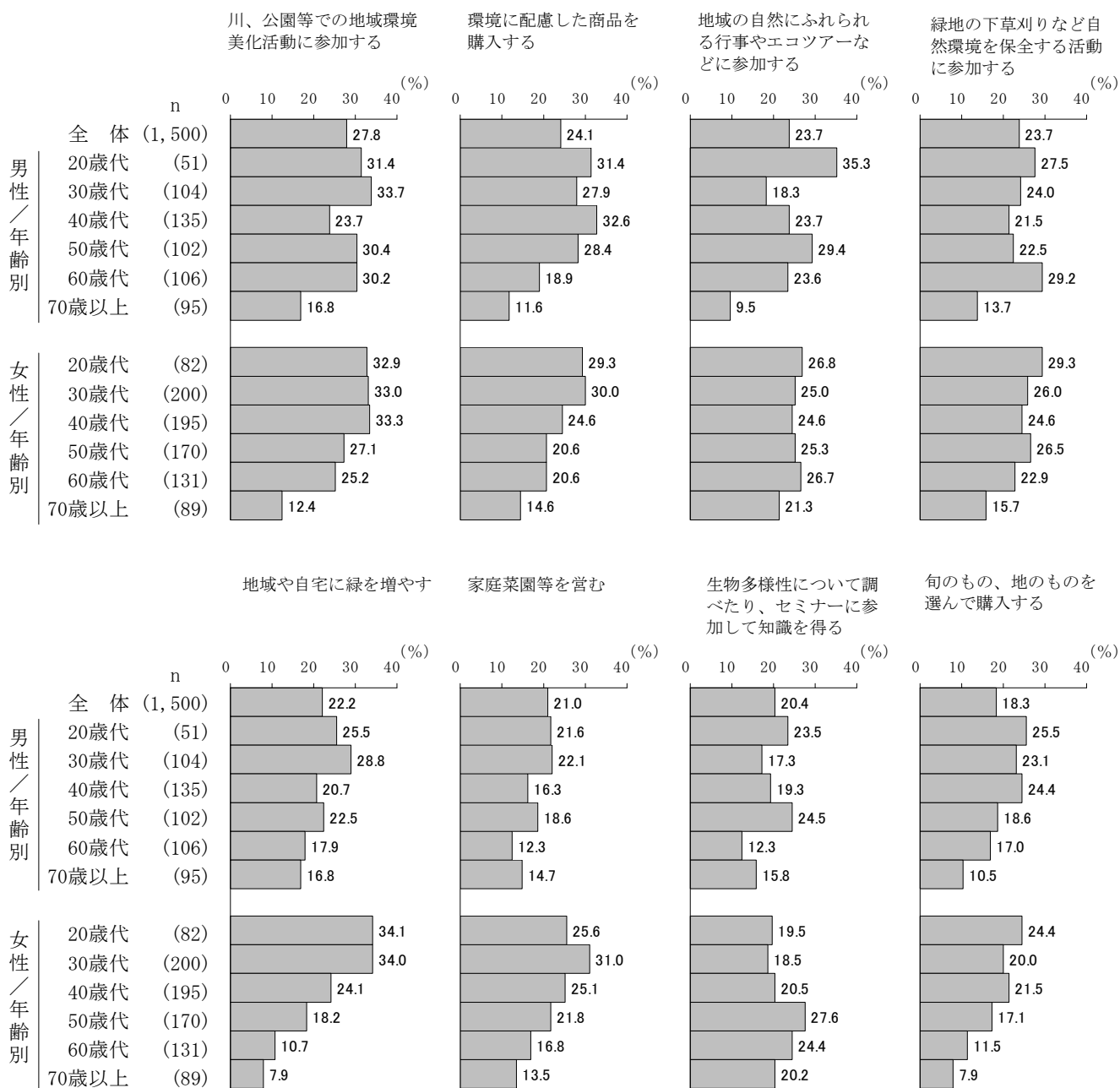
(複数回答) n = (1,500)



生き物や自然環境を守るために今後個人としてできると思うことは、「川、公園等での地域環境美化活動に参加する」(27.8%)が最も多くなっている。次いで、「環境に配慮した商品を購入する」(24.1%)、「地域の自然にふれられる行事やエコツアーなどに参加する」「緑地の下草刈りなど自然環境を保全する活動に参加する」(23.7%)の順となっている。(図表6-13)

図表6-14 生き物や自然環境を守るために今後個人としてできると思うこと

(性/年齢別、上位8項目)



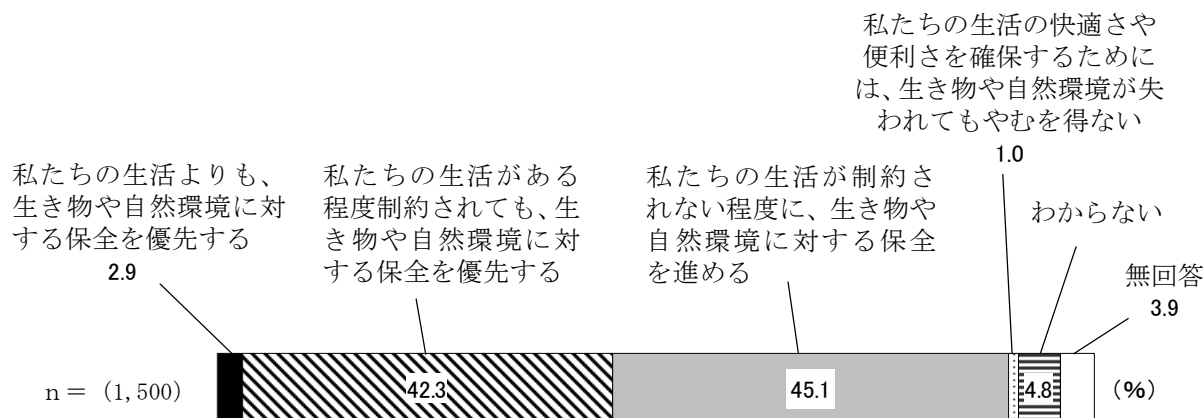
性/年齢別では、「川、公園等での地域環境美化活動に参加する」は、男性では30歳代(33.7%)が最も多く、女性では20歳代から40歳代が3割台と多くなっている。「環境に配慮した商品を購入する」は、男性では20歳代から50歳代が2割台後半から3割台と多くなっており、女性では20歳代(29.3%)、30歳代(30.0%)が約3割と多くなっている。「地域の自然にふれられる行事やエコツアーなどに参加する」は、男性20歳代(35.3%)が3割台半ばと最も多くなっている。「緑地の下草刈りなど自然環境を保全する活動に参加する」は、男性では60歳代(29.2%)、女性では20歳代(29.3%)が最も多くなっている。(図表6-14)

6-8 生物多様性のために快適で便利な生活が制約されることについて

◎「生活が制約されない程度に、生き物や自然環境に対する保全を進める」が45.1%

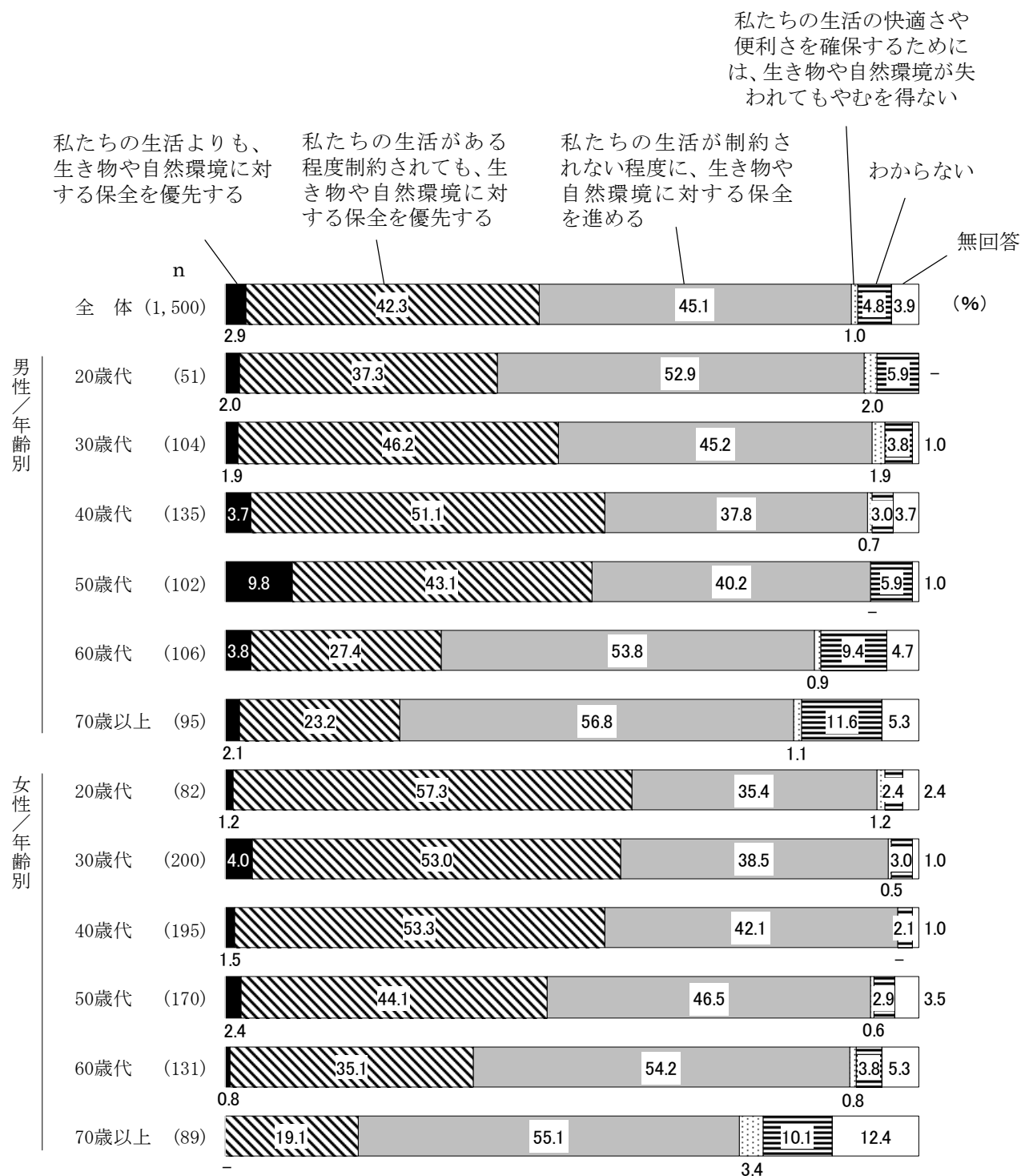
問22 生き物や自然環境を守るために、快適で便利な生活がどの程度までなら制約されてもよいと思いますか。(○は1つだけ)

図表6-15 生物多様性のために快適で便利な生活が制約されることについて



生物多様性のために快適で便利な生活が制約されることについては、「私たちの生活が制約されない程度に、生き物や自然環境に対する保全を進める」が45.1%、「私たちの生活がある程度制約されても、生き物や自然環境に対する保全を優先する」が42.3%となっている。また、「私たちの生活よりも、生き物や自然環境に対する保全を優先する」は2.9%、「私たちの生活の快適さや便利さを確保するためには、生き物や自然環境が失われてもやむを得ない」は1.0%となっている。(図表6-15)

図表6-16 生物多様性のために快適で便利な生活が制約されることについて(性/年齢別)



性/年齢別では、「私たちの生活が制約されない程度に、生き物や自然環境に対する保全を進める」は、男性では70歳以上(56.8%)が5割台半ばと最も多く、20歳代(52.9%)、60歳代(53.8%)も5割台と多くなっている。女性では、年齢が高くなるにつれ割合が多くなっており、70歳以上(55.1%)が5割台半ばと最も多くなっている。(図表6-16)

7 がん検診について

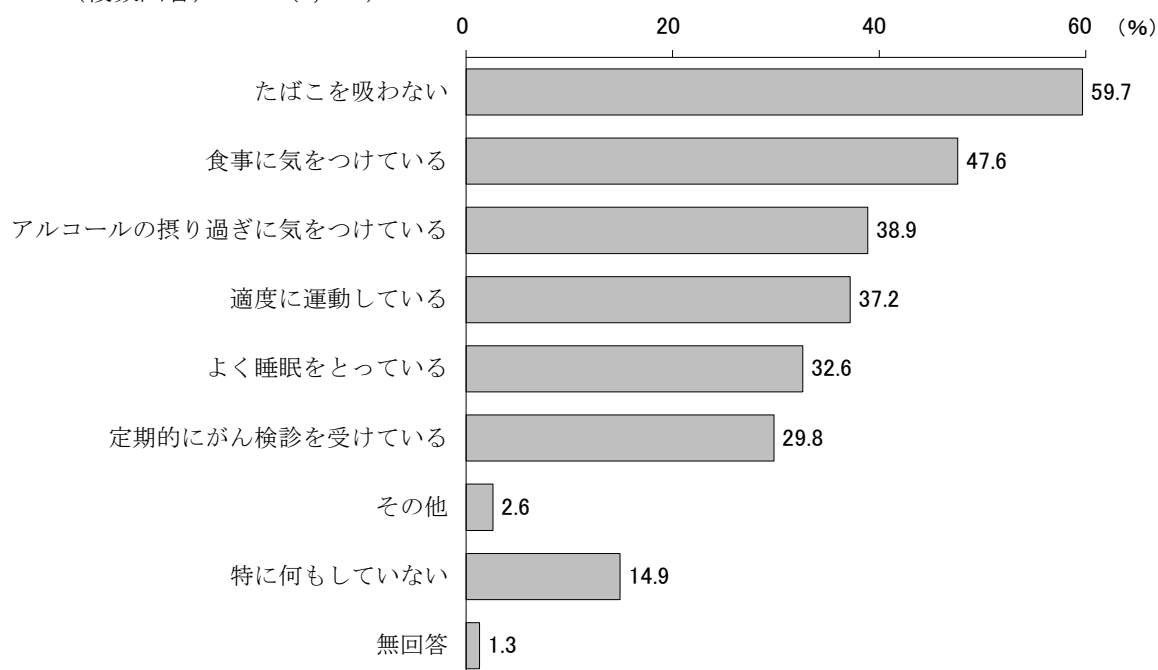
7-1 がん予防として心がけていること

◎「たばこを吸わない」が59.7%

問 23 あなたが、日ごろからがん予防として心がけていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

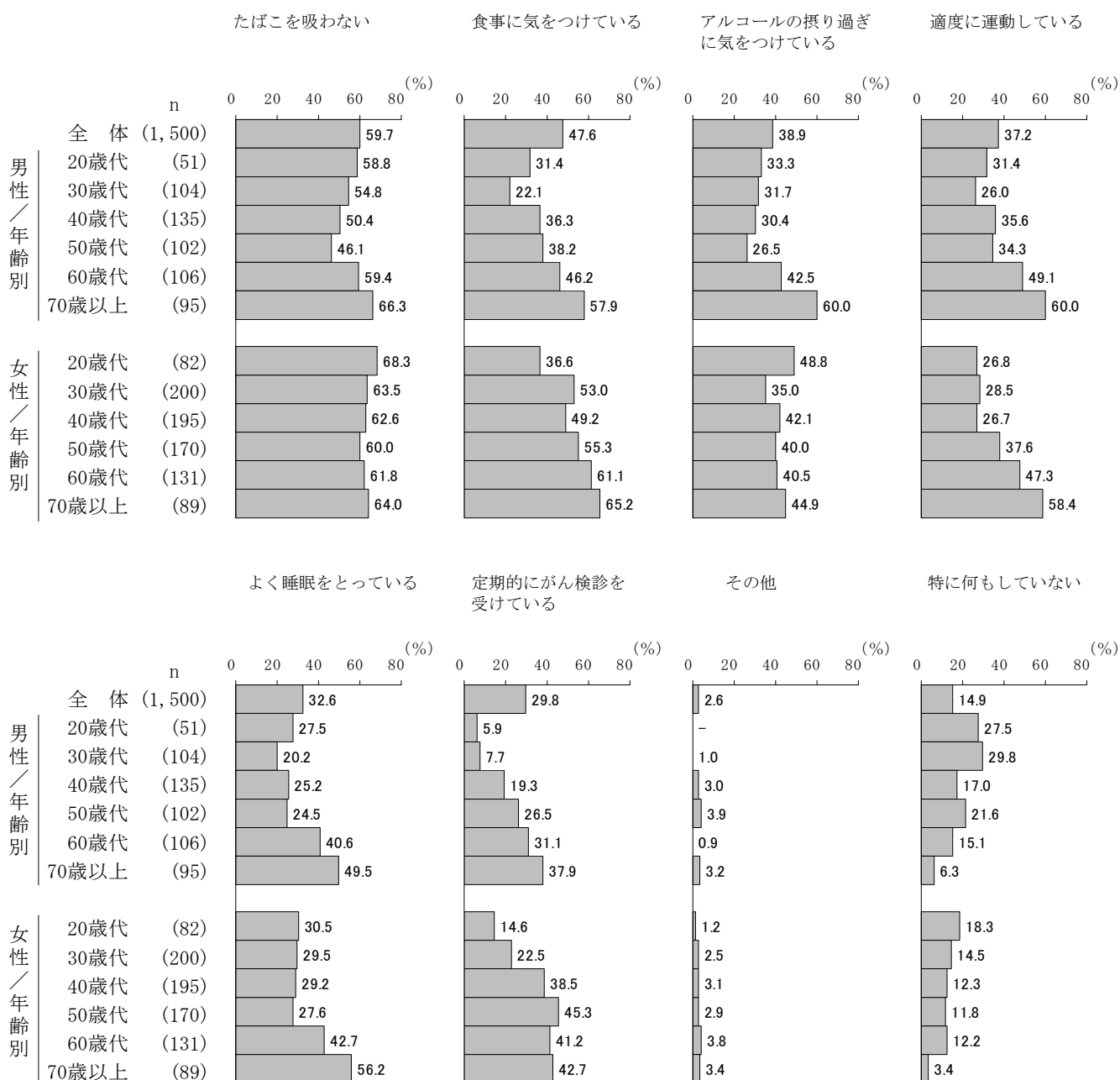
図表7-1 がん予防として心がけていること

(複数回答) n = (1,500)



がん予防として心がけていることは、「たばこを吸わない」(59.7%)が約6割と最も多くなっている。次いで、「食事に気をつけている」(47.6%)、「アルコールの摂り過ぎに気をつけている」(38.9%)、「適度に運動している」(37.2%)の順となっている。(図表7-1)

図表7-2 がん予防として心がけていること（性／年齢別）



性／年齢別では、「たばこを吸わない」は、男性では70歳以上（66.3%）が最も多く、50歳代（46.1%）が最も少なくなっている。「食事に気をつけている」は、男性では70歳以上（57.9%）が5割台後半と最も多く、30歳代（22.1%）が2割台と最も少なくなっている。女性では、60歳代（61.1%）、70歳以上（65.2%）が6割台と多く、20歳代（36.6%）が3割台と最も少なくなっている。「アルコールの摂り過ぎに気をつけている」は、男性では70歳以上（60.0%）が最も多く、50歳代（26.5%）が最も少なくなっている。女性では、20歳代（48.8%）が最も多くなっている。「適度に運動している」は、男女ともに60歳代が4割台後半、70歳以上が約6割と多くなっている。（図表7-2）

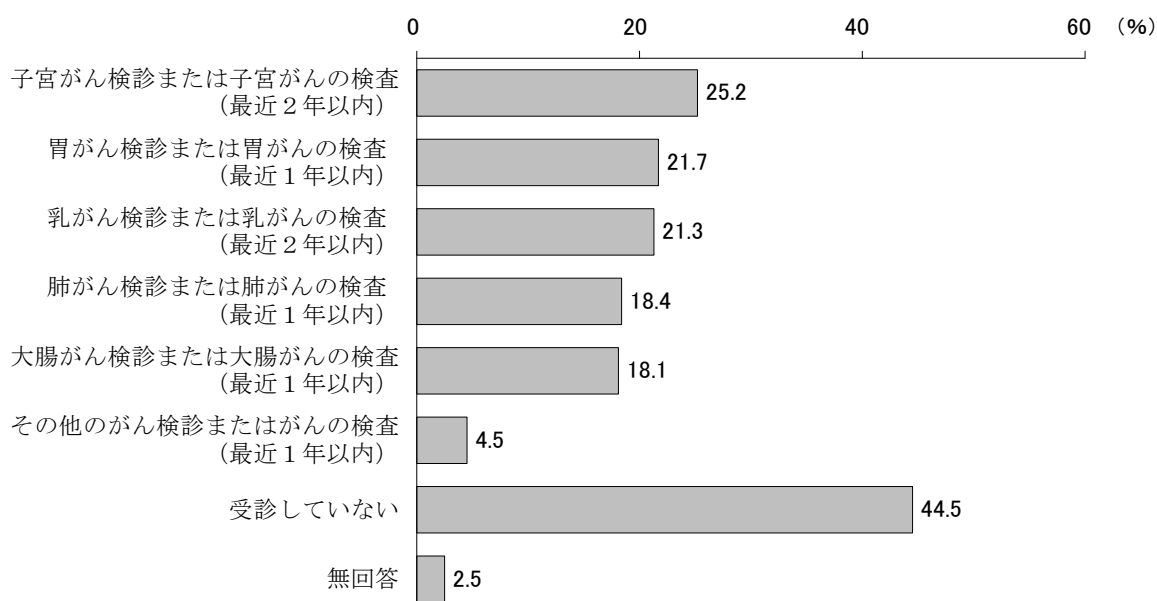
7-2 がん検診の受診状況

◎「受診していない」が44.5%

問24 あなたはがん検診を受診したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表7-3 がん検診の受診状況

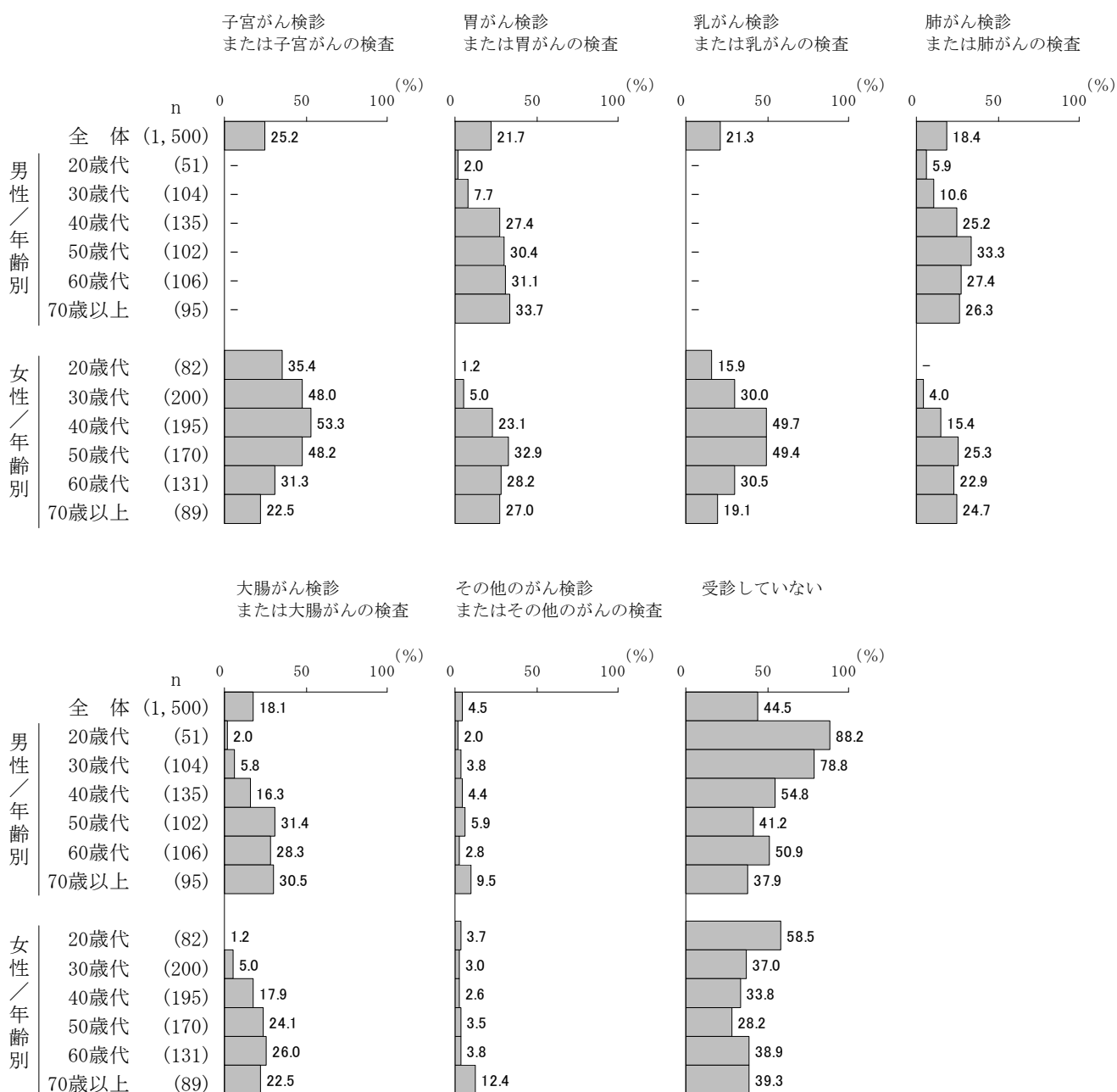
(複数回答) n = (1,500)



・肺がん、大腸がん、胃がん検診は最近1年以内、子宮がん、乳がん検診は最近2年以内のがん検診またはがんの検査を含む健康診断や人間ドック等の受診経験を聞いている。

がん検診の受診状況は、「子宮がん検診または子宮がんの検査 (最近2年以内)」(25.2%) が2割台半ば、「胃がん検診または胃がんの検査 (最近1年以内)」(21.7%)、「乳がん検診または乳がんの検査(最近2年以内)」(21.3%)、「肺がん検診または肺がんの検査(最近1年以内)」(18.4%)、「大腸がん検診または大腸がんの検査 (最近1年以内)」(18.1%) がそれぞれ約2割となっている。一方、「受診していない」(44.5%) は4割台半ばとなっている。(図表7-3)

図表7-4 がん検診の受診状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「子宮がん検診または子宮がんの検査」は、女性の30歳代から50歳代が4割台後半から5割台前半と多くなっている。「乳がん検診または乳がんの検査」は、女性の40歳代(49.7%)、50歳代(49.4%)が4割台後半と多くなっている。「胃がん検診または胃がんの検査」、「肺がん検診または肺がんの検査」、「大腸がん検診または大腸がんの検査」は、男女ともにおおむね40歳代以上の年代が多くなっている。「受診していない」は、男性では20歳代(88.2%)が8割台後半、30歳代(78.8%)が7割台後半と多くなっており、女性では20歳代(58.5%)が5割台後半と多くなっている。(図表7-4)

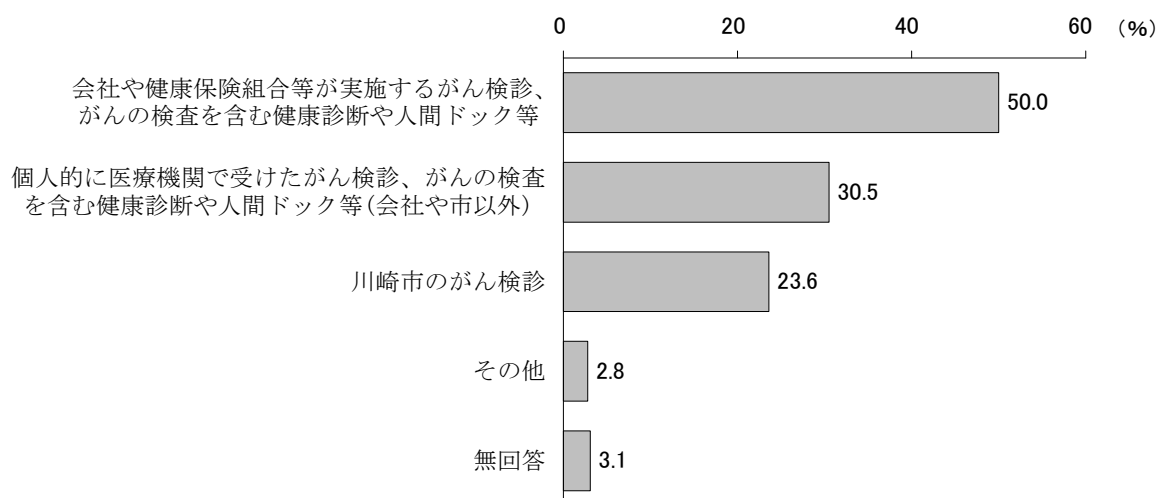
7-3 受診したがん検診の種類

◎「会社や健康保険組合等が実施するがん検診、がんの検査を含む健康診断や人間ドック等」が50.0%

問 24-1 (問 24 で 1 ~ 6 のいずれかに答えた方にうかがいます。)
それはどのようながん検診ですか。(あてはまるものすべてに○)

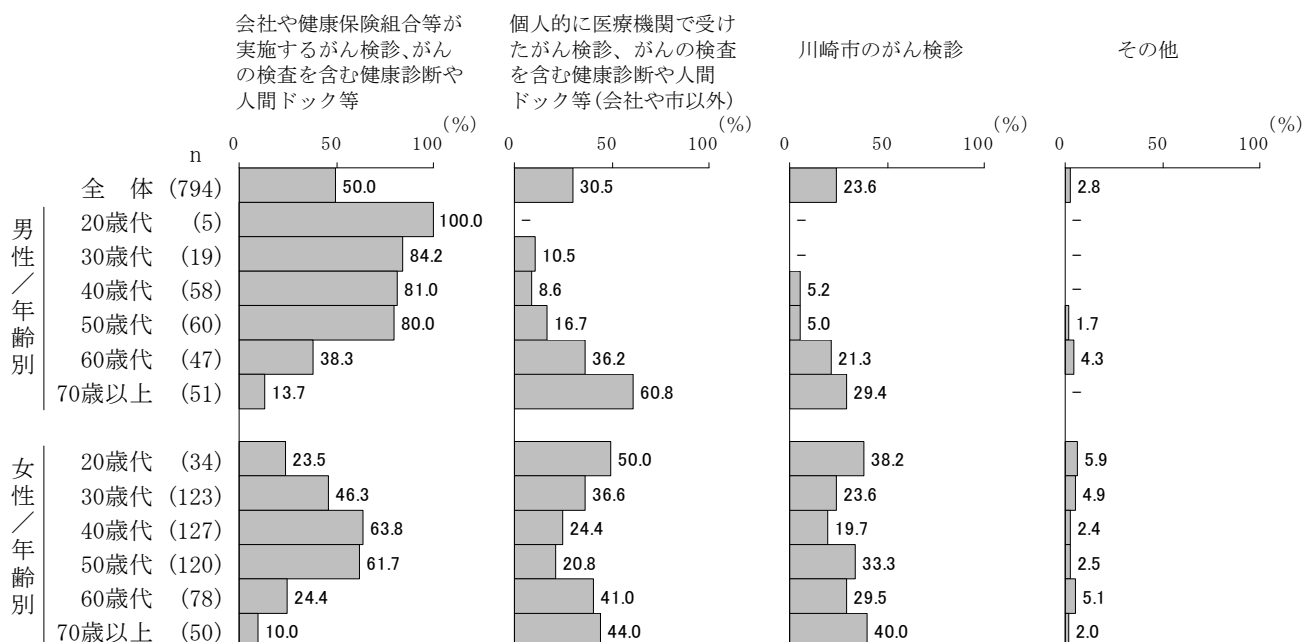
図表 7-5 受診したがん検診の種類

(複数回答) n = (794)



受診したがん検診の種類は、「会社や健康保険組合等が実施するがん検診、がんの検査を含む健康診断や人間ドック等」(50.0%)が最も多くなっている。次いで、「個人的に医療機関で受けたがん検診、がんの検査を含む健康診断や人間ドック等(会社や市以外)」(30.5%)、「川崎市のがん検診」(23.6%)の順となっている。(図表 7-5)

図表7-6 受診したがん検診の種類(性/年齢別)



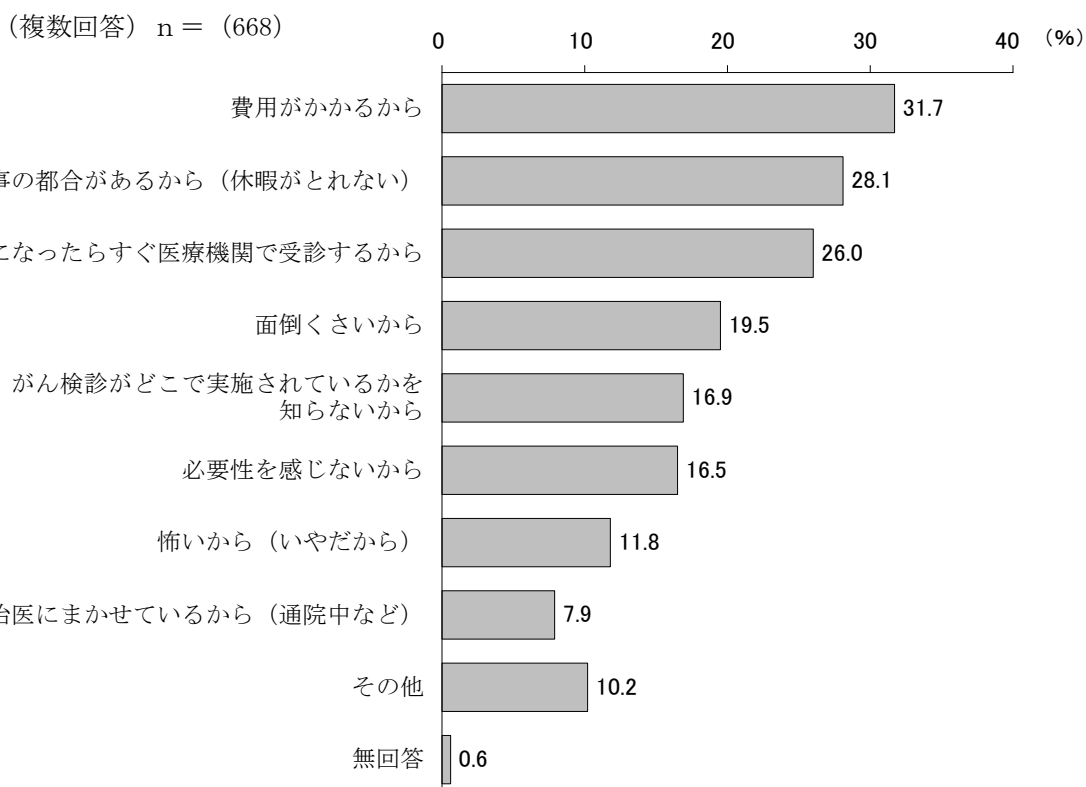
性/年齢別では、「会社や健康保険組合等が実施するがん検診、がんの検査を含む健康診断や人間ドック等」は、男性では60歳代(38.3%)、70歳以上(13.7%)が少なくなっている。女性では、20歳代(23.5%)、60歳代(24.4%)、70歳以上(10.0%)が少なくなっている。「個人的に医療機関で受けたがん検診、がんの検査を含む健康診断や人間ドック等(会社や市以外)」は、男性では70歳以上(60.8%)が6割台と最も多く、次いで60歳代(36.2%)が3割台となっている。女性では、20歳代(50.0%)が5割、60歳代(41.0%)、70歳以上(44.0%)が4割台と多くなっている。「川崎市のがん検診」は、男性では70歳以上(29.4%)が2割台後半、60歳代(21.3%)が2割台前半と多くなっている。女性では、70歳以上(40.0%)が4割、20歳代(38.2%)が3割台後半と多くなっている。(図表7-6)

7-4 がん検診を受診しない理由

◎「費用がかかるから」が31.7%

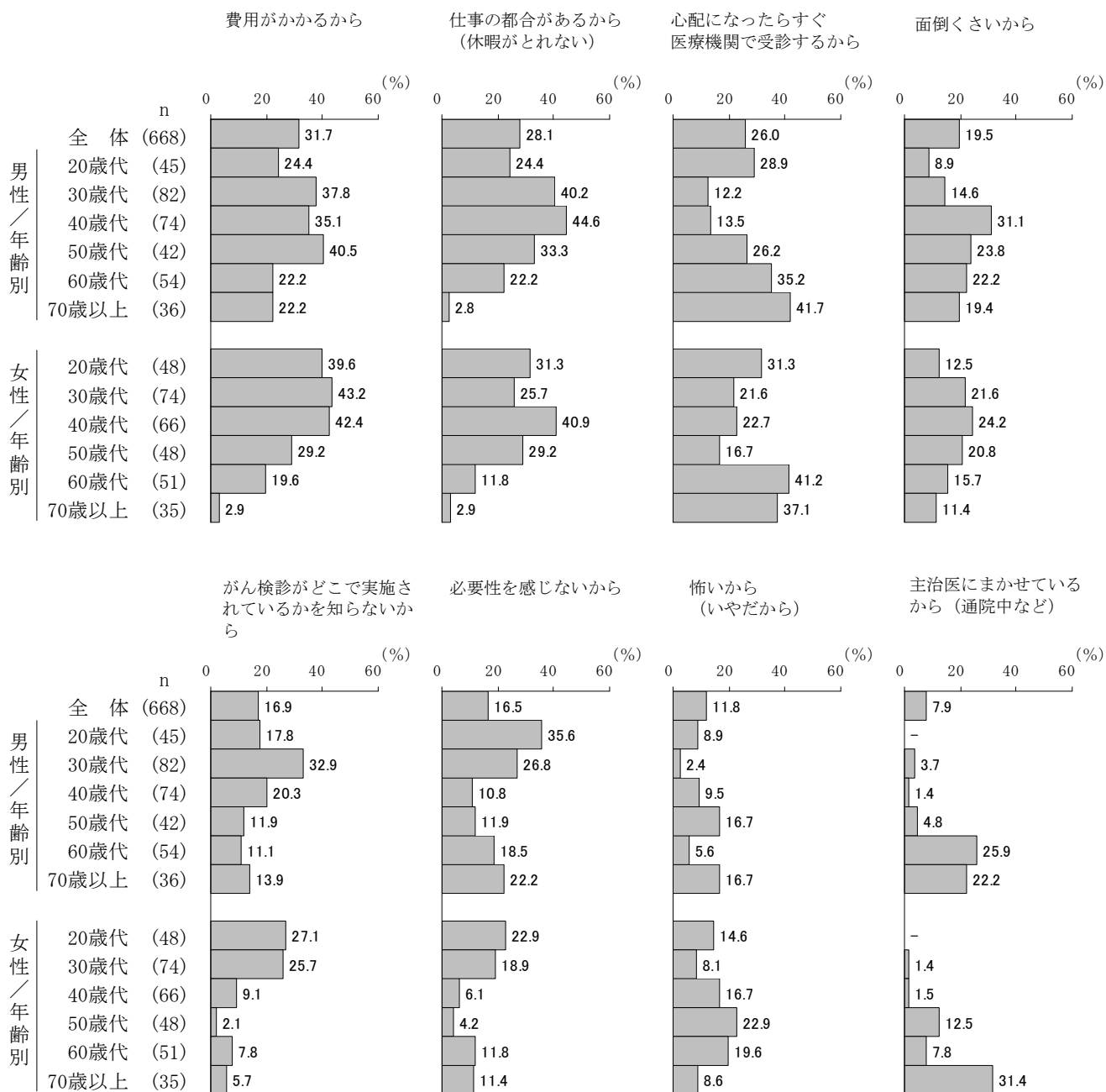
問24-2 (問24で「7 受診していない」と答えた方にかがいます。)
受診していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表7-7 がん検診を受診しない理由



がん検診を受診しない理由は、「費用がかかるから」(31.7%)が3割台と最も多くなっている。次いで、「仕事の都合があるから (休暇がとれない)」(28.1%)、「心配になったらすぐ医療機関で受診するから」(26.0%)の順となっている。(図表7-7)

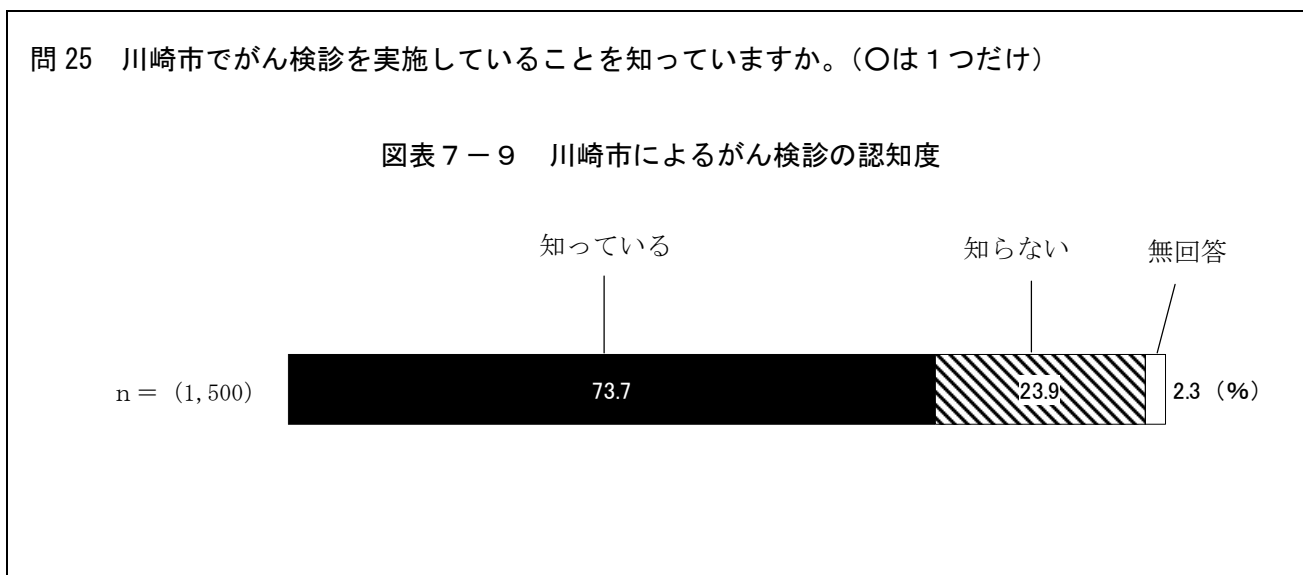
図表7-8 がん検診を受診しない理由(性/年齢別) *「その他」を除く8項目



性/年齢別では、「費用がかかるから」は、男性では30歳代から50歳代が3割台半ばから4割台と多く、女性では20歳代から40歳代が3割台後半から4割台と多くなっている。「仕事の都合があるから(休暇がとれない)」は、男性では30歳代(40.2%)と40歳代(44.6%)、女性では40歳代(40.9%)が4割台と多くなっている。「心配になったらすぐ医療機関で受診するから」は、男性では60歳代(35.2%)、70歳以上(41.7%)が多くなっており、30歳代(12.2%)、40歳代(13.5%)が1割台と少なくなっている。女性では、60歳代(41.2%)、70歳以上(37.1%)が多くなっており、50歳代(16.7%)が1割台と少なくなっている。(図表7-8)

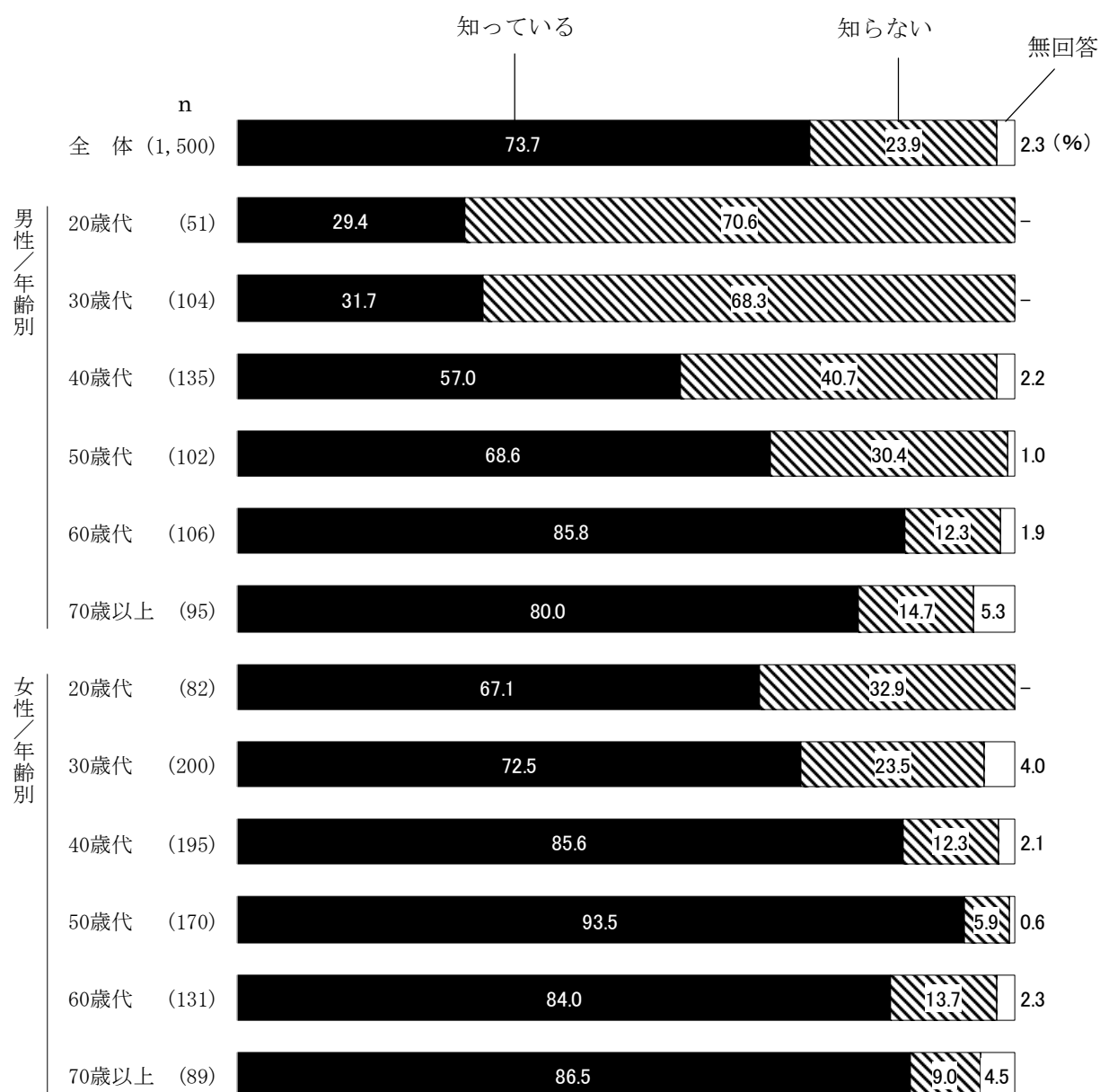
7-5 川崎市によるがん検診実施の認知度

◎「知っている」が73.7%



川崎市によるがん検診の認知度は、「知っている」が73.7%、「知らない」は23.9%となっている。(図表7-9)

図表7-10 川崎市によるがん検診の認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、「知っている」は、男性では20歳代(29.4%)、30歳代(31.7%)が少なくなっており、40歳代以上の年代はおおむね年齢が上がるにつれ多くなっている。女性では、40歳代から70歳以上は8割を超えており、50歳代(93.5%)では9割台と最も多くなっている。(図表7-10)

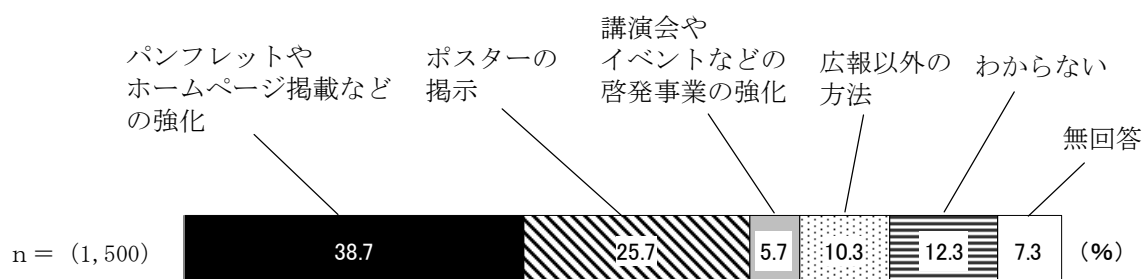
7-6 市のがん検診受診率を上げるにはどのような広報が効果的か

◎「パンフレットやホームページ掲載などの強化」が38.7%

問 26 現在、川崎市のがん検診では、子宮がん検診の受診率が一番高く 24.9%です。今後、もっと多くの方に川崎市のがん検診を受診していただきたく、さらに広報を強化したいと考えておりますが、受診率の向上にはどのような広報が効果的だと思いますか。

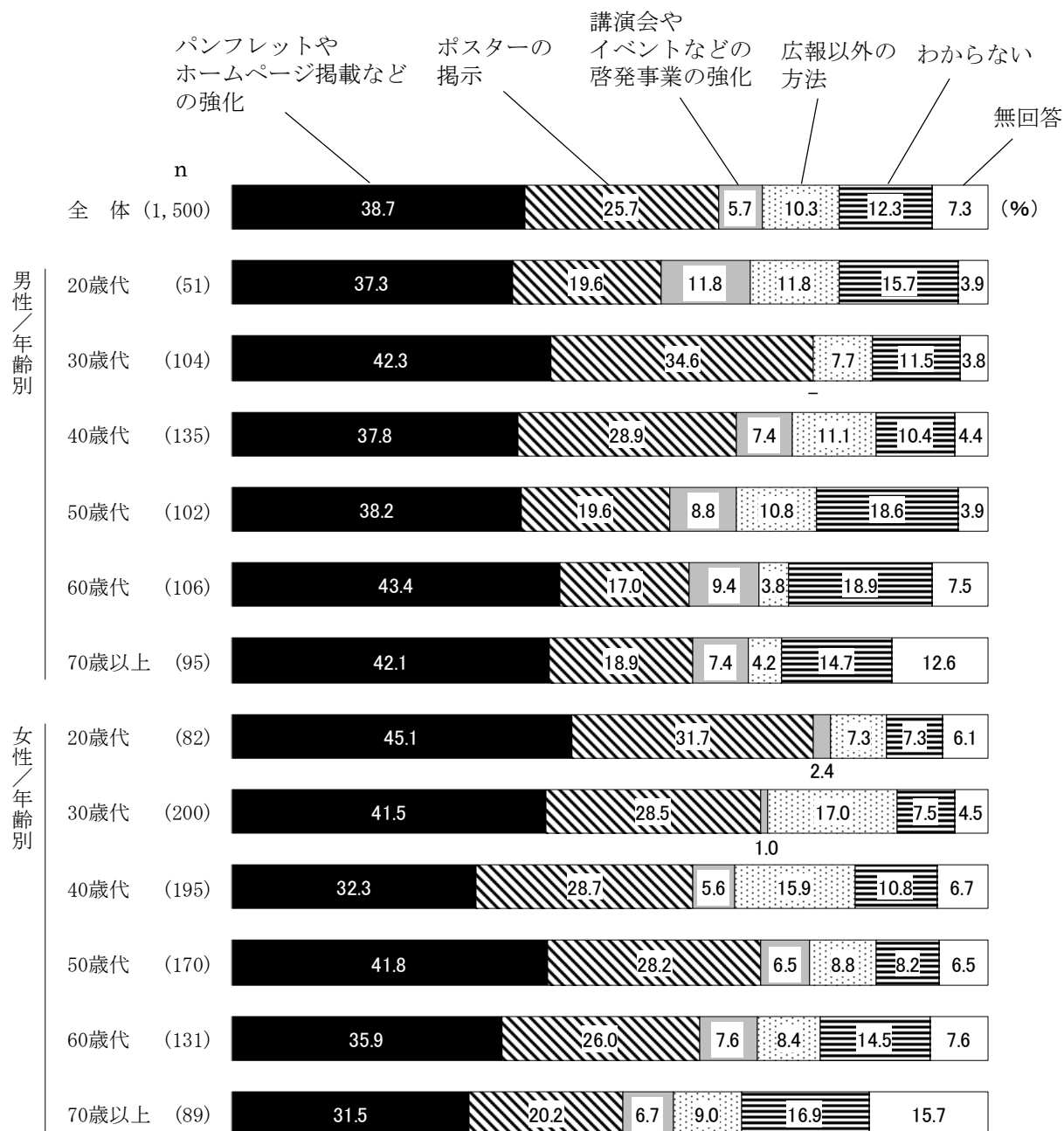
最も効果的だと思うものを1つお選びください。(○は1つだけ)

図表 7-11 市のがん検診受診率を上げるにはどのような広報が効果的か



市のがん検診受診率を上げるにはどのような広報が効果的かについては、「パンフレットやホームページ掲載などの強化」が 38.7%と最も多くなっている。「ポスターの掲示」は 25.7%、「講演会やイベントなどの啓発事業の強化」は 5.7%となっている。一方、「広報以外の方法」は 10.3%となっている。(図表 7-11)

図表7-12 市のがん検診受診率を上げるにはどのような広報が効果的か(性/年齢別)



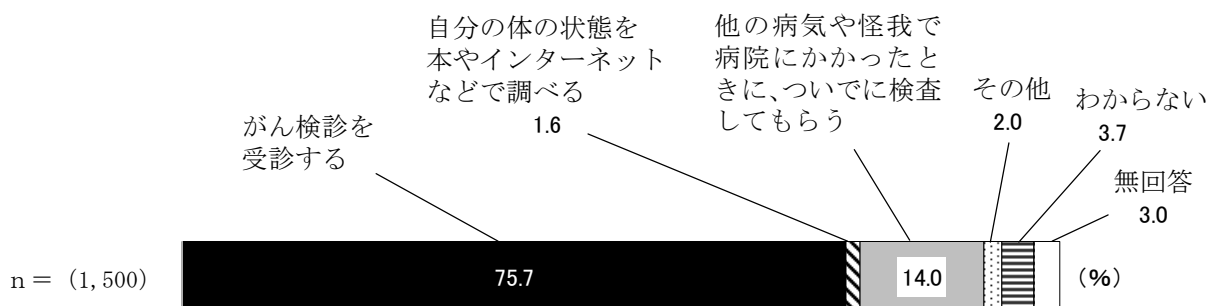
性/年齢別では、「パンフレットやホームページ掲載などの強化」は、女性20歳代(45.1%)が4割台半ばと最も多くなっている。「ポスターの掲示」は、男性では30歳代(34.6%)、女性では20歳代(31.7%)が3割台と多くなっている。「講演会やイベントなどの啓発事業の強化」は、男性20歳代(11.8%)が多くなっている。「広報以外の方法」は、女性の30歳代(17.0%)、40歳代(15.9%)が多くなっている。(図表7-12)

7-7 がんの早期発見・治療に向けて効果的だと思う方法

◎「がん検診を受診する」が75.7%

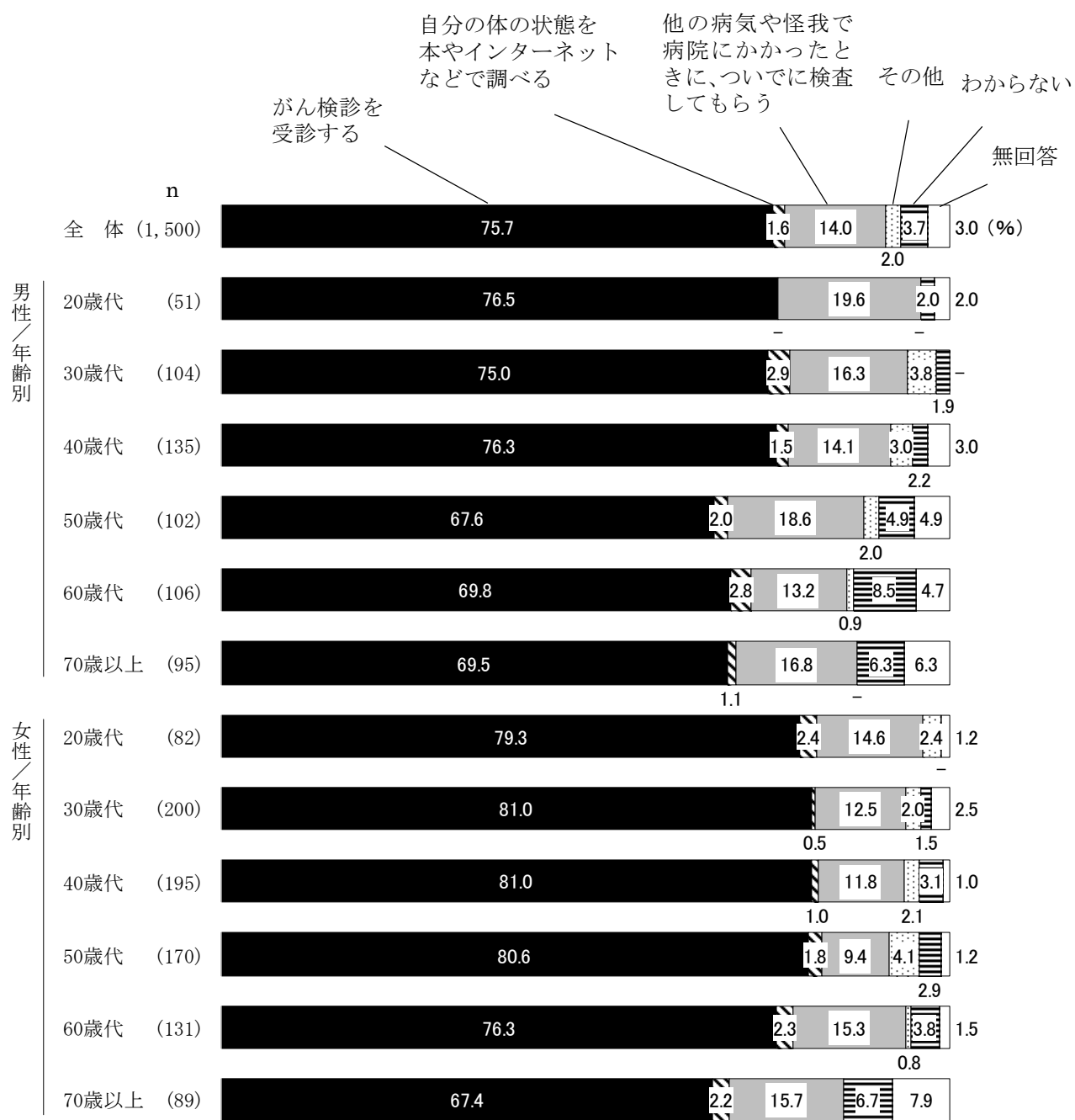
問27 がんは我が国の死亡原因の第一位ですが、がんを早期発見・治療により、以前に比べて治癒率が高くなっています。がんの早期発見・治療に向けて最も効果的だと思うものは次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

図表7-13 がんの早期発見・治療に向けて効果的だと思う方法



がんの早期発見・治療に向けて効果的だと思う方法は、「がん検診を受診する」が75.7%と最も多くなっている。「他の病気や怪我で病院にかかったときに、ついでに検査してもらう」は14.0%、「自分の体の状態を本やインターネットなどで調べる」は1.6%となっている。(図表7-13)

図表7-14 がんの早期発見・治療に向けて効果的だと思う方法（性／年齢別）



性／年齢別では、「がん検診を受診する」は、女性の30歳代から50歳代が8割台と多くなっている。(図表7-14)